日本萬歲 百撰百笑

強兵の戦任力

骨皮道人

支那人「露西亜兵あちこち打つ寛い私一向外中立見て居るあゝ大勝利私一帝國万歳唱へる朝鮮人「日本強い露西亜負け私怖いあゝさの後ろ向き見て居るあゝ勝つそうだ私一日本万歳唱へる日本人「何ぢさて居るんぢ露西亜の弱武士が二千や三千居ばかりで血微毒の潰崩ぢやア手數ばかり掛つて却て面倒臭いから成丈け沼山まわり集つて處を一所懸命ドンドンと攻め附る積りだんぢゃ併しモウ大抵宮の頃ぢゃろうから徐々出掛て見やうと例の如く多年鍛へ上げた銃剣と一命と兵は鴻毛より軽しと提げて行て見ると、彼の奴虫のやうな露兵が何万とあつて迂錯ーして居るまで日本兵士が所で銃剣の力をこめ九連城も鳳凰城も一度にスポーンと打抜てウントコ陀面所と吊揚げやうと支那人も朝鮮人も瞻を潰して「あゝ大将強い私一韓清驚ろく



貴
45
4415

貴
45
4415





眞生

日本萬歲百撰百笑

強兵の戦任力　骨皮道人

支那人「露西亜兵たいさん居る、九連城鳳凰城みんな露西亜兵あちこち打つ突つ、私ー向外中立見て居る、あゝ大勝利、私ー帝國万歳唱へる朝鮮人「日本強い露西亜負ける、私ー怖いあゝ勝つよう〳〵、私ー日の後ろ附〳〵見て居るんぢ露西亜の何と云て居るんぢ露西亜の本万歳唱へる日本兵士「弱武士が二千や三千居よが〳〵〳〵血微裏〳〵の濟崩〳〵ぢやア手數ずり掛つて却て面倒臭いから、成ん丈澤山まとり集つて處を一所娯多少ヅドンと出掛る積りなんざら、併しモウ大抵宜の頃ざらうから、徐〳〵出掛て見やう、と例の如く多年鍛へ上ぐ銃剣を、一命と共ゝ鴻毛よう軽〳〵〳〵提げて行て見ると、彼の旭虫のやうな露兵が何万とあく迂鋪〳〵て居るまで、日本兵士ハ此所そと銃剣ゝ方をこめ、九連城も鳳凰城も一度スポーンと打抜て、ウントコ唯面所と吊ー揚げゝ、ズルと支那人も朝鮮人も瞻を潰して「あゝ大将強い私ー韓清驚いる



真生

日本萬歲百撰百笑

○海陸戦争勝技 骨皮道人

日「おれ自己ふ向ッて海陸将技の腕競べをしやうまんざア、随ふ押が強いぢやないか、サア勝るあゝ勝て見ろソーラ海軍の方ら攻め掛るぞ、どうだモウ魔誤〳〵して居るぢやあのう森」さう来られちやア海軍駄目ざ、夫でハ港口へ逃込まう」日「逃やうとて逸さうか此水雷でツドーンさ露「オヤ〳〵ツドーン着高麦切ら、是ハ参ッたナ」日「未ダ種ゐ有ル追つけ生ざ、ソコで最一ツ水雷と行〳〵ら奴ハ又弱ッ〳〵なア」日「又弱ッたら魅ア見〳〵事ら旦で先づ海軍ハ全滅大勝利〳〵て、今度ハ又陸軍の方だあ」「ハヽア漠〳〵の一丸連城とお出をすつら、是も気ハ気ぢやないナ、仕方ゐあゐ先づ鳳凰の体で逃げ出せ〳〵」日「よ〳〵逃る奴ぶ、逃ッて奉天も駄目〳〵で」「イヤ兎角金州ゐ事ハあるかれ、なぐ〳〵攻込まれ落ちで坐て居ぶ、退〳〵ら蔵〳〵攻込まれるもので、彼奴も餘ぞと閉口〳〵と見へて、ハ愈〳〵主城です



日本萬歳百撰百笑

○仁川艦鯛の一網　骨皮道人

我海軍の勇兵ら豫て見込を附し仁川へ行き「ヤア左ゐ〳〵見込通り此處へ敵艦鯛が居ら〳〵で、此痴苦生め、イクラを前ら居は賭をつけて高慢痴機を跳繰廻つくも、天網恢〳〵疎〳〵漏さん。自己ら歎對ちるやうな不埒な奴はみんな此網を打被せ〳〵殘らず捕獲て呉るわ〳〵……オヤ〳〵此奴生意氣な向ひするのが……是れーツ、我りやア苦、ま〳〵ゆけ、そんな無鉄砲の見當違ひぢやア、網体汰目ぶか〳〵夫より此處で陣場を打ち〳〵ドン〳〵網を打込んで行ら〳〵、其艦鯛はモウ跳繰るまい跳ね〳〵仕舞へ〳〵云ひながら綵まび、眩突ら来て八所戰敗ます、是れや丸乱と一生懸命ゐ、ヤツト二三丁逃げ延たが、何ら政せ頭も胴中も大砲ゐ大疵と受け〳〵居る事ゐゑ、死ら体茲ま極まつく〳〵、尚ら〳〵最期を遂げやうソコで我が勇兵も大勝よろこび「ム、敵ゐ死傷のまりぐ



日本萬歲百撰百笑

○泣き労れ　骨皮道人

旅順口の表艦や砲艦や砲墓も日本軍の為め手酷く撃破られ、誠に早あゝ果敢き有様ぞ、つので其敗艦や砲臺ハロット虫の息ながらも其まを這出し今度ハ陸軍の方へ泣付よ〳〵砲墓モレあの砲墓ハ代様も酷〳〵打毀さ〳〵死舞ましたどうぞ老人公のお力でお助け成すって下さいます軍艦砲臺さんの方ハお毀さ〳〵云ても、まゞ幾許の形地が残って居ますけゞロア軍艦の大怪我を見て下さいコレ此通り何のやうまで、滅茶〳〵に大穴を明られまして、イヤモウオ動きも出来ぬいやうお様ぞざいます、どうぞお慈悲にお助けあすって下さいまし陸軍「イヤさうも方々泣き付しても乃公ハ実ハ当惑まする、素より其の筈の違の難渋ハ知ったいがいのハなのに彼の日本軍の強み没せ陸軍の方でさ〳〵も、いのあゝ弱〳〵兵隆ぞ居るまでハ困ゝ、どうしたら宜いろう思案



日本萬歲百撰百笑

○章魚の足らひ

骨皮道人

旅順口の海上へ、素敵滅法界お船入道が跳り出て坐「エヘン一生蛸うハ此座りまするが、逸早く鯛戦艦以下降伏を述る程の事もますまいが、逸鯛戦艦以露艦鯛の奴等ハ、鯛抵らう日本艦隊ハ鯛ト附られ踏ま其鯛長が地獄の方へ鯛散ってからハぐうし鯛も斯う一鯛も進鯛維し谷ツて碌〻五鯛も利ない癖ゐまぐピチ〳〵ト鯛屑らう〳〵尾鰭を動かし鯛くハぐう云ふ字皆だら実ハ異鯛の分らない、然が自己も此方ハ鯛屈ぐらゝ、此艦鯛を一ツ生捕て見鯛ものゞゐ、彼奴が逃げ鯛ゐハ奴が生延鯛ゐハ、ハア浦塩へ行き鯛、武装が鮮き鯛降糸し鯛、助ゐり鯛戦が止め鯛本國へ歸り鯛、食ひ鯛、飲ゝ鯛、捕虜まで種〻の鯛が居ゝ中ゝ面白い、ドレ片ツ端ゐら生捕てやらうゝ、ソラ来ゝ、オット又来た、此奴ア造作なく取ツつかまる実ゝ危鯛ざゝと見営り死鯛ゐ足の先へ巻附まで、露艦鯛ハ皆大弱り「さうをられちやア、迚も疳けぬ



日本萬歲百撰百笑

○埋へ工夫

骨皮道人

口ハ禍ひの門くハ能ク言ふが、全く旅順口ハ禍ひの門ぢゃ、此口さへ小ッ酷い目ハ締附て仕舞やア、款ッ切り息の根も止る艦ぢゃら、港口を塞いだ彼奴の鼻毛を抜て呉らうぢやないから「ムヽ其奴ア宜い思ひ附ぢゃ、然が何で塞いざら宜か浪海、まさか石を擔いで行て、意趣返しとハ洒落でもあるまいエヽオット波りよ舟、待が海路の日和くハ此事ハ幸ひ斯ういふ故當の役生船ぢある、之を四五艘打ッ込ざらどうぢ」「成ろ〳〵夫ア豪い氣ぢゃ決死りや戦ハ急げ早速得くに帆を揚げて出掛やハイヤ愉海〳〵大愉海ぢゃと勇ましい氣凛然と正に旅順の口元へ行き、サア此所だ皆附露〳〵と云ひあぐゝ、ツドン〳〵裏沉〳〵と打込んぢゃが、堪らぬハイクラ目から火を出さうが、自暴かゝ提灯をぶら下げやうが、迚もモウ世間へ面出しぢら出来ぬ末ハくなろ〳〵、スルと之を見て居ゝ露艦ぢア口惜い

日本萬歲百撰百笑

○王辻露隊砲墓　骨皮道人

怖い魚へバ等も鬼も、大砲の音よ歩てるのも好いか
味噌を摺る者でも、大砲の不首尾兵ハ若日本軍ぢ来
いぶ、砲墓よ居る例の不首尾兵ハ若日本軍ぢ来
て、大変ごいふので、毎時も顫へなぐら双眼鏡をる
て、彼方此方と眺めく居る
甲「ハテナ今怪しの煙ぢ見へるのハ何ぶらう」乙「夫ぢア僕が
煙草を吸て居るぶ甲「ムー、さうかイヤ向ふく大陸陸
兵ぢまるやうぶぞ」乙「何を
云く居るのぶイクラ
日本兵ぶ来て海の上を
歩いく来く泡も
さうぶけ」甲「困るおア雷ぢ周章ちやア……
ドレ僕よ見せろこと乙「何ぶ此双眼鏡此ぞも
見へるものゝ、なぐく
あつく居るぶ又へ後ろく大ぶ来て
突然よ「ワレく」夫ぢ付く、スルト英獨露武
者等皆瞻を潰してそこらへ平突張ぶぞ
洋犬ーて下さい

日本萬歳百撰百笑

○玉乗の死苦屁

骨皮道人

甲「オイ君、斯う云ふ例の露西亜の怪面野郎めが、時頃大きな地球を拵らへて、夫で玉乗の藝を初めて、然して其玉の上へ遼東半島の地図が書てある奴を見ると、彼奴め其土地を丸めて、端折りすまして、ツラリと構へ、ヒヨイと一突きすると、不思議や甲「何時のまにそさう生意気に成つたんだ夫ぢや愉快な話だ、夫ハ何時の事だ」乙「ナニ今巻舌に話すが、実ハポンチ来られて、少巻舌を困らせ、其奴向ふで「さう、道理で何だか変だと思つた



△玉乗ハ、不届き至極の振舞ひ、あゝと云ひあげ〳〵スポーンと一突き実〳〵、其奴ハ忽ち素ツ転コロリと転げ落て、其侭ギヤフンとありよせ「成ほど夫ぢや愉快な話だ、夫ハ何時の事だ」乙「ナニ今巻舌に話すが、実ハポンチ来られて、少巻舌を困らせ、其奴向ふで「さう、道理で何だか変だと思つた

日本萬歳百撰百笑

倒底出来得べからざる秘術と云ふものぞ、ソコで武芸指南千人斬と

日本萬歲 百撰百笑

○影辨慶　骨皮道人

武藏坊辨慶ハ源氏方の豪傑、墨所の弁慶ハお玉杓子の休み所、弁慶の鎧ハ鉄を以て威張り、弁慶と云ても中々勇ましさゞぶ、自己ハ同下駄弁慶と云ても、そんな氣の利ゝた事ハ出来ぬ霊飯弁慶などころゞゝ

マア早く〳〵見りやア、仕る米ぬかぢら〳〵出放題の大法螺を吹て相手のない時ハ空威張の弁慶、イヤ影弁慶と来ちや恐ら〳〵自己の右ホ出る者ハ無からう、夫だゝ大砲でも小銃でも、其弾丸ヒユーと飛で来れバ、チユーと首を素ッ込め、突貫ーと来りやア ホ兎ーと逃出す、其ゑゝ弁慶で無けりやア、回





回倒底出来得べくさる秘術と云ものゞ、ソコで武蔵坊ハ千人斬をしようと思ふから、自己ハ一番戦陣逃と出掛て見やう、なゝ例の橋弁慶を氣取て居る所へ、ブト牛若丸のやうな美婦しい日本兵が通り掛ゝ、スルと其影を見て「どうぞ命だけハお助け下さい五條でするゝ

日本萬歳百撰百笑

○飛だ人玉

骨皮道人

日本の大勝利を當込の新趣向で風船玉の軍艦や將校の肖像などを書きものゝ出来〳〵、ソコで和一と露助と云ふ二人の子供へ之を揚げるのを面白がつて〳〵指遣つて居る和一「僕のハ日本の軍人さんだから皆んなお強いが、君のハ何様のだか見せ給へ〳〵」ヤア是ハマカロフだつゝ駄目だ露助「ナーニ是ハ強い退將さ和「何が強いものか夫ぢやアあゝして見やうと和「ムー飛ーべ見給へ、僕が一ツ戦争をするからと和一ハマカロフの風船を軍艦で搏り附けゝ〳〵風船を和一ハ活潑ざかり拳骨を固めて「此野郎と云ひあゞく、其横ツ面とポカーンと撲り附け〳〵揚り始めゝ處が〳〵堪らあれ、マカロフは忽ちパチーンと破裂して、粉名微塵とあつて、スルと露助ハ大弱りで暴露裏〳〵涙を溢し〳〵泣き出し〳〵和一の方ハ手を叩いて万歳〳〵と大喜びよんでヤーイ弱虫めあアんやがれ



日本萬歳百撰百笑

○苦露熊退治　骨皮道人

我が日本の軍人は山をも抜き海をも刳裂き、水火の中をも突き悩まず、天下無双の鉄腸男児ぞ、氷炭も容れざる悍い熊め、イクラ手前が小氷洋の真中で大面を搆へて居ても、斯う我が結岡力を以て取掛りや、苦露熊でも死熊でも、片っ端から退治つけるのは、何の朝飯前のお茶の粉ぞ、サア苦露熊の畜生共何処へ迂露附き居るまいぞ、抜けば玉散る氷の刃、何でも怒士〳〵遣附けて、鉄槌で勝利〳〵と打ッ我利〳〵ッ切るやら、鉄槌で勝利〳〵と打ッ鉄〳〵やら、四方八方から〳〵粉々微塵と打砕いて、ズンと氷の中へ顫へて居る苦露熊も死熊も、みんな悽毛を振って氷露裏〳〵と出て来ぶ、却斯うあるも、グウの音も出ず、流石の面乃皮の厚い熊も餘りの事に、ハッと見へて、唯ワーと兵降参で、捕虜〳〵涙を溢して、なが〳〵死業投首熊「どうぞ勝手を願ひます。

日本萬歳百撰百笑

○逃露〳〵　骨皮道人

一氣劻戰の日本水兵が、腕を捲を掛て露艦に向ひ「鶏を割〳〵牛刀を用ねずとえふが、驚の軍艦を打潰すまやア、自己二人でも澤山だ、ベーロシヤでも、チヤンケンポイでも何でも来ん、此鉄拳を揮ツて片ッ端う〳〵滅茶〳〵に遣附るぞヤア、朝飯前のお茶の粉ぐ……だと、此苦多張損ひの独毛當め、劣等初産、懲りたアわ、もう止て呉しやらア、何ぶレトウイザン、ポルターワ、ペレスウィツトイクラ出砲甚堂か〳〵無鉄砲を打ツ放さうが、大法螺を吹く〳〵半死半鐘を叩き立やうが、そんな事ア兵氣の兵士の日本兵ぐそ手前をグ一生懸命ま乱棒や木偶の棒と振廻ーても、すぢやア日本魂と金鉄腸で度胸を固めて居るか、些ともビクくも仕ねのぶ、サア手向ひが出来るか向つ〳〵見ろと、勇氣凛〳〵ーてドら〳〵打掛つて行〳〵と、敵艦ハ膽を潰ーて大抵武苦〳〵と沢んで仕舞ぶ、其残りの敗艦ハ旅順口を指ーて、逃露〳〵と駆込んぐ

○掃ハ内埃ハ外　骨皮道人

日本萬歳百撰百笑





○掃ハ内埃ハ外　骨皮道人

毒蚊数鬼の骨砂野郎も、式位小ッ酷い目ヨ、打ちくゝ、ゝゝ吉一加減ヨ我の角を折て、降参ト閉口奉ってうさうさ、ものゝよ、そこら人る益でもあれ、虫螻蛄田様の悲ーさまハ、飛ぐ次ト入る夏の虫々、飯の上の蝿のやうお奴ア一匹ヅ打ッ掃ってしまへ、性懲もなくゝ来る、こん

日本萬歳百撰百笑

○手強い兵士　骨皮道人へ

日本兵「金州の強い兵士の旅順が手堅いの、無鉄砲も口から出砲基を並べて、イヤ強城抜く居る要塞では最早ーも應へがあるざらし思ひの外、何のがさて旅順の咽喉でも、金州の胴中でも、自勇自慢よけ通り、お負る斯う一振りまして見ろや、度胸の骨も膽玉も皆無ぢ



なの思ひ為ら仕く見ろ金州「恐しや今更ら退ても、サア斯う成りやア、生さう殺さうと、やう仕方の縛る次第ざ、ミアハ、眼玉をむいて居やアがら、サア是でもまだ死ぬ苦悩ぬ向ひの生来る、鬼角金ばるて勿れと、詫言乃ますく、鬼角金ばるて勿れと、詫言乃呑気ぶ氣ぢ文ぢゃありません、さうも酷くえう呑ら戦ひ訳ぢ如何も甲も、烏合氣ぢ旅順がつきません、平ぢ降参ーます旅順「アヽ苦しゝ、もう斯くまつくハ、迚もグウの音も出ません、どうぞ助ろのお咽喉見通りを願ひます

○枝取ゆら、露兵ハ吃驚仰天ーて、

日本萬歲百撰百笑

○歔兵の無守備

骨皮道人

金州城を守備て居る、露國の烏合兵が、相手のお撲ゝ、鬼でも蛇でも、小指の先で捻り潰すやうな、沐法螺を吹て居る、甲「いつら日本兵が強いと云ても、此堅固い金州城よ、自己達のやうな英雄が守備て居りやア、是が世ゝ云ふ鬼よ鉄棒ぢゃ」「さう計様な変へ、日本兵の一万人も来てアろうやアたらいナア」「全くぶ、どうか見せゝ呉ゝ、あゝゝゝよ蔭弁当を極めこんで居る所へ、呼るをすればお前ころ、露兵の日本兵士が、真正の日本兵士が、実ニユウと頭し出て、彼奴等の守備て居る金州城をもおゝポカーンと○

○扱耶ころ、露兵ハ吃驚る仰天ーて、初めの勢ひ何処へやら、ヤア大変ゝと、腰を抜す奴もあれば目を廻す奴もあり何ぼ這ーの件で千変万化を逃出ー露兵「是ぢゃア城も守用がなゝ

日本萬歲百撰百笑

○両國の大相撲　骨皮道人

甲「今日ハ両國の大相撲を見て来ぶ、其慶氣テーお無かつぜ、何すろ天気ハ日本晴だ、殊ょ其取組ハ東が日本魂ょ西が荒鷲共、處が此荒鷲ハ其身体も了簡も却ょ図太イ奴で、其面の皮も怒の皮も厚ょる者ょ未て居るから、誰一人く〜て見ょ負ょする者ハ無ょ癖ょ、イヤょ高慢の獅ょも鼻までが、大胡坐乃無礼ょ働ょく、其土俵ょ上ょる迄ハ、例の主恥い、其度でイザ勝負ょ成て見ょると、荒鷲の活智の無さが減ょ仕切ょく立ょ中ょ、意気驚いもう逃腰ょもつく、露ょも降ょも烏合氣が取れも、其處〳〵ツドン〳〵と二三度突掛ょると、彼奴めょも足も出なんぐ〜全ょ仕て哥薩克ょて云ひなぐ〜、天地も震動する計りの芋虫も宜一〜くサ、スルと天地も震動する計りの喊ょで、忽ち烏拉甫山も鉢割ょる程で、あつて「大合唱」ハ日の下開山ぶ、日本魂ハ日の下開山ぶものよ



日本萬歳百撰百笑

○新釣狐

骨皮道人

甲「ろしあの露西亜の傲慢無礼ハ言語同断ふ埒の事で、全く話も画も書けあてこそふけしからぬ、十三画ぶんじ書てかけるもない例へば露西亜の我得ぶ狐めが、支那や朝鮮を旨く〳〵嘗込んで、已が餌食ぶしやうと謀叛ざ変を日本がドツコイさう旨くハ問屋で卸さぬと〳〵ドーンと之を取拉ぎ〳〵如何さま是ハおもしろい、然して之を取拉ぐ〳〵時の文句ハこゝ甲「さゝサ、普通の狗狐ぁゝ、コンコンちきやコンちきや、伝田の森の、狐をふんづかまへよ、きつねを浮ようよ、浮ようよ、うーかよ浮ようよ、サア取ちやんイさいなぁと云ぶのぶ、いきりハ云はぁ、一すマア斯う云ふ軍歌のやうな唱子で勇ましく〳〵ドン〳〵おてやあ西亜おてやおてやおてやあ西亜露西亜をおてやおてやおてやおてやおてやあ西亜を打てやおてやおてやおてやあ西亜サア勝さんイさいなぁ

日本萬歳百撰百笑

○露都の縮表　骨皮道人

所謂れ小兵なるもので、日本で捉燈行列を催すの八何れも連戦連勝を祝する為めぐ、連戦連敗の露國でも、此頃頻りに列強をして居ると云ふ八、ハテ不思議ざうふ理由で、何を祝するのざらふと思ふと、是八戦争ぢやが負けさふ方が、結句命を別條がなくて目出度とふのので、夫で戦争を負ふと云毎に、軒並み皆白旗を擧て居るのざさうぶ、むも実に、カンテラや洋燈あざを持ふぶ活ーぶる、其時の軍歌が又面白い

日露開戦その以来
海ぶ戦ひ海ぶ負け
陸ぶ攻られ陸ぶ負け
海陸ともぶ大負ハ
固より自業自得ぢや
日本の強き故なるぞ
露西亜の弱き故なるぞ
お活ーの中ぶ、そんぶ軍歌を唄ふて歩いて、能く政府で黙止て居ますねへ（甲）左様ぢ、夫も人民の勢ひが強いとふ、政府の方でも大負を負てるのでせふ



日本萬歲百撰百笑

遼東御勘弁　骨皮道人

日本兵「ヤイ露助の兵隊垂れ、腰ぬけの怪面野郎め、手前達いそんなに大きな身体をして、べら棒な図体ばかり長くて、ちっとも役に立ねえ、調法の知らずだ、実地の戦争や腕競べと来りゃア、自己の片腕のカでも追附まの而も自己ハ鉄砲でも日本刀でも鋸でよ鉋でよ鑢でよ何でもキく〳〵だぞ、ヨく見ろ、鐵道ぐらゐが電信ぐらゐが、自己のほね掛りやア、直ぐ片ッ端から捻切て、先づ斯うした風よ図々〳〵すて呉るまのよ、サア汽車が交まで来て居るから、サア乗遠東迄勘弁あんでと兵卒張さつて、所詮かう身動きもさせないのだ、ソラ普蘭店も一捻り、金州も一捻り、奉天で是から又旅順を目掛て足の向き砲墓よ捨て潰すのよ、慾ア見ろ汽車の乱地のやうに、丸で葛藤の化物見てやうに、イヤよぶる〳〵顫へて居やアがる、と云ふ事が晴しい其威勢を見て、あの國の臆病武者共が着〳〵打驚き「ヘー是ハ〳〵旅順……夫ア海邊ざ



日本萬歲百撰百笑

○諸城を踏潰す　骨皮道人

露西亜の木葉軍、連戦連敗で、漸くの九連城も気が気でない是ぢや奉天も駄目ざと、鳳凰の体で逃出すやうな有様ざが、夫よりも都え日本軍八、百戦百勝向ふ委よ敵あく、山河を跋渉〳〵何委までも軍〳〵攻込む勢ひよ、露兵八地裏く〳〵撹乱く〳〵何れも小さ〳〵あつて目ふ見へなくなつたら、委で日本の勇兵八鴨緑江の方から〳〵も踏込めば、又普蘭店や金州の方から〳〵も押てゆく、サア斯〳〵あるく〳〵露兵八猶又の之元でも実ふ附ない甲「僕鴨緑江を渡つく〳〵、寛甸城つく〳〵九連鳳凰等の諸城を踏潰〳〵て来〳〵、イヤ露兵を弱虫〳〵ふ笹ぐ何奴も此奴もみんな蜱〳〵と打倒れ居るよ」と云て、矢張虫の縁八さ羊虫蚊蝿〳〵と云て、矢張虫の縁八離れまの、僕八又其蚊ぬく〳〵野郎を退治つけ中ふ中いふう心腹の虫が承知ーあい」「夫ぞ小同様の事ざ、併ーて行さう、露兵等八仕舞まぐうするざらう甲「ソリヤ戦さ気が無〳〵あるのサ



日本萬歲百撰百笑

○飛ぶ迷案

骨皮道人

露西亞の軍艦がみんな日本艦隊の為めよ撃沈められて、丸ッ切滅茶〳〵の形無よあつて仕舞ふので、日頃傲慢ある退長も是よは餘ほど閉口〳〵と見えて、頻りよ青息を吹て居ると、其部下の一人が「如何です退長、私が今度斯ういふ迷案を考へ出しましよう、夫いどうするとこふよ先づ軍艦の上へドウサリ風船玉を縛り附て置くのです、夫で日本の艦隊が例の大砲を打つと、或ハ水雷艇でも出て来る時よハ、オツトどつこいしよと、ツーと空中へ飛揚る、若し飛揚ねば沈没した處が、又直ぐよポカ〳〵と浮上るここここソレ是が其雛形です、此體ですと通是が即ち軍艦飛逃げ自在の迷法、エヘン如何です」ムゝ成る〳〵、是ハなるへ上の方へ飛揚つて時よ下の方がらづドン〳〵と火をつけるする「イヤ底の處ハ未だ考へ中ですんでゝ



日本萬歳百撰百笑

○手脚い漬ー形　骨皮道人

露西亜ハ國が廣く、その人員が大きいのと、いざ眼競べとあっても、日本ハ世界の中で、屈指の強國故あって、決して人種なんぞハ餘っ程上るものでハあるまいと存じて居ったが、之を研究して見ると、上の方ハ遠く及ばぬまでも、中々スラブ人種ハ多く、中でも露國ハ實に大きなものである。

○一國一城の主

野蛮江の方ハ遠く、九州城、鳳凰城、寛甸城、遼陽、奉天或ハ遼東半島の方で普蘭店、蓋平、金州、南山、南関嶺、青泥窪、得利寺、旅順港、何れも彼れ此れも片端から掘り浚えて、夫れ浦潮、哈爾賓、莫斯科迄も、其ほか全露セント・ピータスブルクと云う様な順序で行くのだナントお同様よこんな愉快な事ハありやせんぜ」

「さうサ、然し露西亜ハ早く片附けるが併し其勢ひに愚者表と二個みすぼらしい西亜の不恰好さハ何程あっても成るべく甲乙丈ハ知らずにおびつ附よ



日本萬歳百撰百笑

日本萬歲百撰百笑

上苓の死露物　骨皮道人

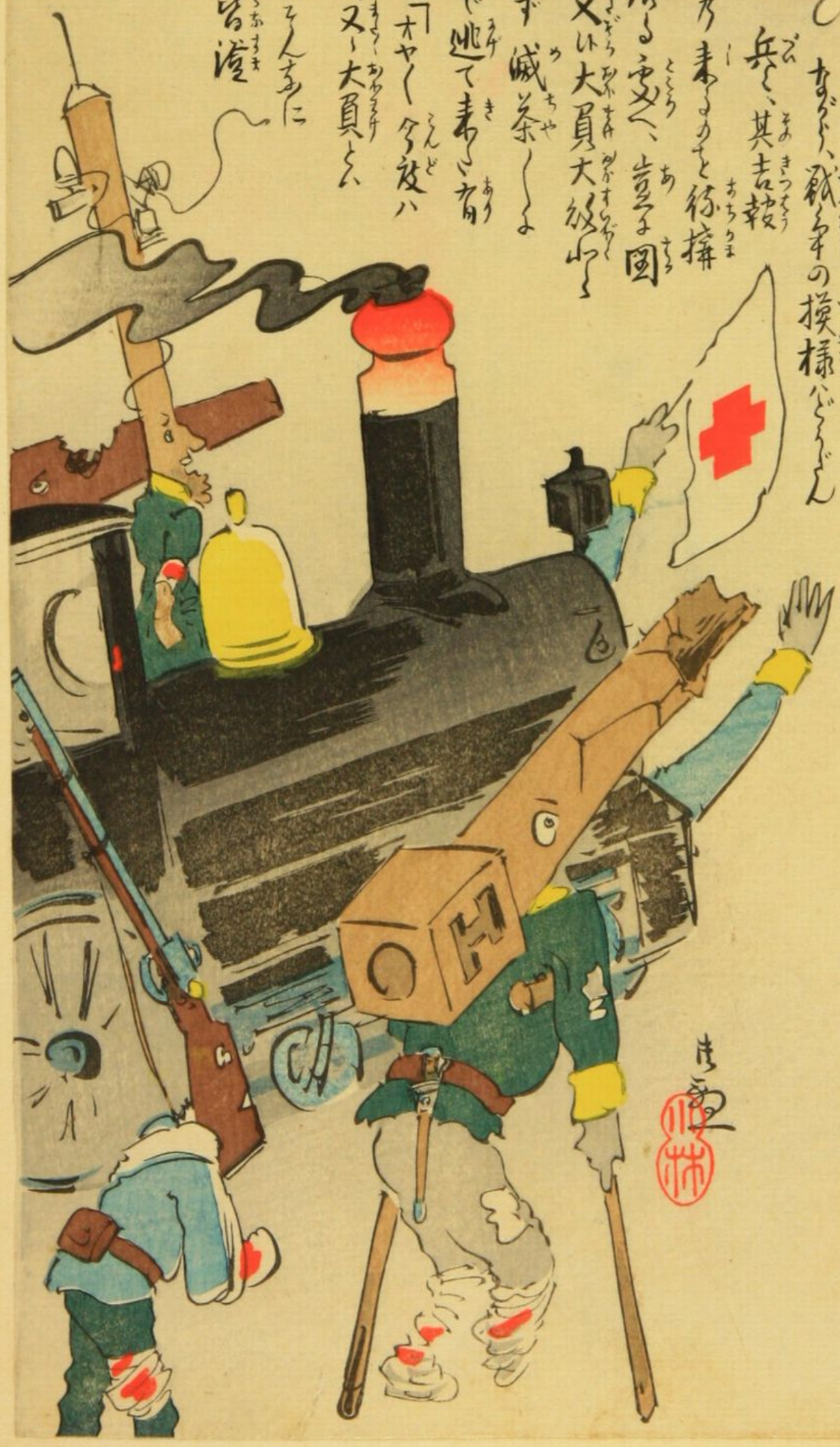
日本艦隊が露艦を撃沈める度毎に、龍宮界の騒ぎは一通りでない、昨日は軍艦の底ら落て来る〳〵、今日は又水雷が轉が〳〵来さ、或は錨やら、或は煙突やら、丸で大風こ木の葉の散が如く〳〵で来る、さうかと思つて又赤い鬚の土左衛門が、珠数繋ぎなつて〳〵、殿様あり〳〵流れ〳〵来るので、魚類の方では近頃よき大漁ざと云つて〳〵喜んで居る、ソコで龍神が海底電信で所〳〵へ寸合せて見ると、日露の海戦と分つたので、今度こそ無論日本の勝利であつて、何う紀念物をあつらへ、折角〳〵立派な龍神もやつと安心して「さう云へば十年程前も此の様な事があつたが、其時も日本の大勝利であつて、今度も全勝を極めて居る、日本は実に世界の強國ぞ、と云つて〳〵居る處へ、折角〳〵土左衛門つが落て来て、素より実に然の事ざが、乙姫を始め傍の者は驚いて皆壓氣よろしく流石は龍神は落附いたもので「ム、是は上苓乃死露物ざ、之を日本の将勇で〆締て置かう

日本萬歲百撰百笑



○得利寺の打毀れ　骨皮道人

露西亜乃兵ッ鉾軍ハ、いつでも捲り切〳〵大敗北、コレ又負ふやレ又負〳〵と負〳〵上る必らず又の字ゞ附ある事ハあい字又〳〵、今度ハ頭数でこます氣で五六万乃ヒヨロ武者を得利寺へ繰出し、其前よりブランデーよ紙〳〵〳〵居る普業店で負ふ〳〵、其代りは利の方で一呑と云ふ、乙ふ同算を附ふよの見へる〳〵、兎る角多数の兵を出〳〵ふ〳〵、今度こそハ大兵負ふ〳〵ハあるまいと信じ〳〵、其急報ハ御ふず祝ひ〳〵〳〵ビールあふを飲み



まだ〳〵、戦ふ事の換様分らず、又い大負大敗ふ〳〵

兵〳〵、其吉報乃来ふあを待撰

〳〵居る壱万〳〵、豈ふ図らや、又い大負大敗ふ〳〵

様よ、急報の驚き八一方あらず「オヤ〳〵今度ハ吃度大勝利さらと思ひの外、又〳〵大負ふ此活劇あつあ、ナゼ変様達ハそんまに強いのぶとふバナ洗ふ兵ハ皆滑ーしせんで「十三ノ利さるですから、さけが強いのです

日本萬歲百撰百笑

日本萬歲百撰百笑

○危妙な旗ら氣　骨皮道人

土手の普請の乱杭や古長家の釘の頭でも見ようもので出ればすぐ打たれ又出れば打たれサーでも頭を持上げれば、直ぐにどらくと始終ベタラぬ様、如何せん非徒の義兵でも是ぢやア迚も切れまいと考つて、そこで其の苦風が面白い何でも白旗さへ出せば日本軍が慈悲深いから助けてくれるにちがいないと急に大きな白旗を押つ立てゝ夫でも不安心と思ふやら、今度は油画の絵の具で、赤い十のマークを書いて旗も半ば甲「為ー」

モウ日本軍が来ても

乙「命だけハ助けるに違いないと云ひながら後ろを振向き見ること、今度ハ又日の丸の旗を書て居ようが、旗持ハ面白くない思ひ甲「オイ夫ハ日本の國旗だぞ、夫を書て何とするつて、今ハ日本軍が来ると

□日本軍を唱てるまあさ甲「成程夫もそうだ、赤い十ばかり附つけ

日本萬歲百撰百笑

○露國の歸外賣　骨皮道人

所替れば品替るとハ能く云ふもので、日本で新聞の号外と来るのハ大勝利の号外〳〵といふのと、露國の方でハ大負の号外〳〵と云ふ具ハ直段を負けるのか〳〵思ふと、人生〳〵戦争ハ負け〳〵号外〳〵紳士「オヤ〳〵又大負ケの号外を一枚呉れ、何程ですか号外賣「ハイ露若戦で四座います紳士「ヘー露若戦で買被ると死戦を負けて置けと、一枚買て之を読下せば。

罒月十三日旅順口ふ於て我が露國艦数隻ハ日本艦隊の為めふ最も猛烈いある大攻撃を受け驅逐艦二隻ハ撃沈せられ提督マカロフ中将の坐乗せーペトロパウロスクも日本沈設水雷に掛りて沈没ー提督及び乗組員七百有餘名ハ皆悉ー海中ふ溺死せり

婦人「オヤ〳〵大変ですねー何だか〳〵露國紳士「イヤさう云ふ訳ハ其様ふ弱いのでせう〳〵随ふ強い変ものでもあれ、あの國だから〳〵時ある婦人「ヘエ何ぼ強いのでせう紳士「夫ハ痩我慢と負惜み



日本萬歲 百撰百笑

○露將ノ降將

骨皮道人

ソラ負けゝ又負けゝ負けゝ大負けゞと、何だゞ歳の市ノ難市の土実物ろくやうよ、負けゝの掛声ばかりぢやアイクラ面乃皮が厚くても、所我これでハきそうを初め「ハテナ妻将ゝ溜息をつくゞ死素の恩の深いのを幸ひよ、是までハ本國の奴等ゞ自惚の強いのを奮闘こゝろ、逃たのを退却と云ひ、打殺されたのを戦死こゝろ嘘こゝ大法螺で誤魔化して居ゞ、命こゝ旅順も陥落ー遼陽も占領さしたこゝエ、儘よ勝負ハ時の運と云ふゝ、竟こゝ本國へ帰ゝて有の侭よ大負けを報告ーやうゝ、イヤゝ未だ大負けを報告ーやうゝ、イヤゝ未だ奪の上銃殺と来るとも知れあれば何ぞも命あつての物種ぶゝゝハ未だ寧こゝを勇戦奮闘と見せ掛て其実日本へ降参して捕虜の優待を受けやうゝ、何のゝても死未だ負へあれるよ恥併等盤づくでゞ行けバ二心が一身イヤ労ーても剣の恐い将兵ゞ



日本萬歲百撰百笑

○三國拳　骨皮道人

甲「子供ハ無邪氣あるものだ云ふが、そりや國と云ふ
ものも、矢張り子供の樣に、種々の氣風があるから、一概によさう無邪氣と許りも
限らない、早い話しが、今度の日露戰爭は就て日本と支那と
△露西亞の三ヶ國の子供が、まるで拳を打て
遊んで居るとしても、其子供の氣合ハ、各自
違て居る事ひない、先づ支那ハ甲ニを守て
チヤンと行儀よく名主を抱込んで居るのと露西亞ハ
之を誤茶化す氣で、無暗矢鱈と狐を出す、スルと
日本でハ素晴しい腕前を揮ツて、ヅドン〳〵と鉄砲で
露西亞をおつと云ふやうな按排式ぶらうと思ふ
乙「夫ハマア夫迄ひなものが、併し三國を狐拳よ
譬へての話しあり、強ち子供ハ限るまい、
大人でも實さうに思ふ事が
見ハる供も限るのサて「ハテね、夫ハ又ぐ
云ふ譯で甲「デモ、まハ
三外の國ツ
加勢と云ふ
なのいう

日本萬歳百撰百笑

奉天府

○奉天のチヨコ見世　骨皮道人

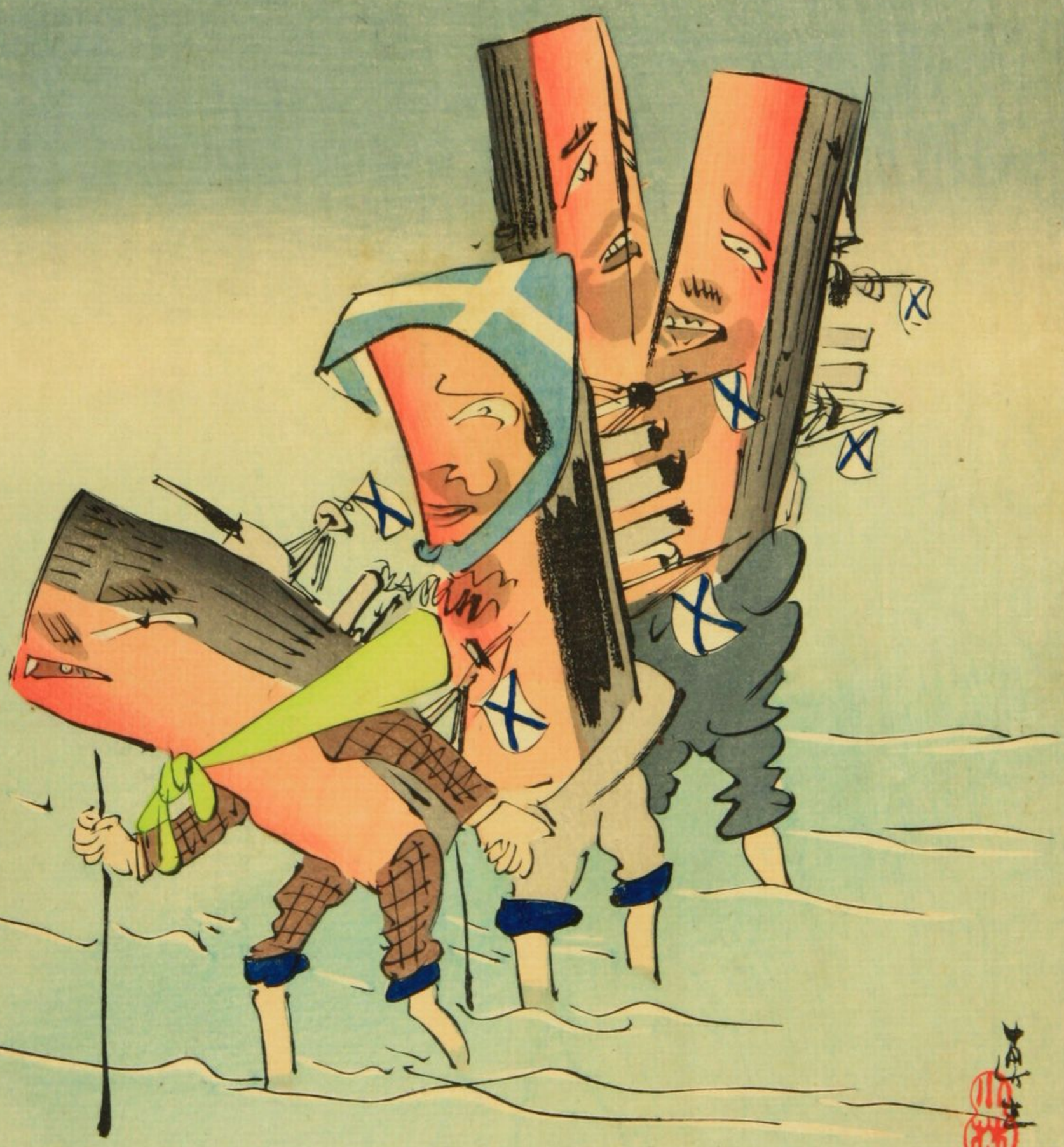
開明らく〳〵見世掛く其内幕ハ極の野蛮強国らしれ大法螺を吹て居ても其実除ハ木偶の坊同様の活智ゑ〳〵是が露西亞一流の天麩羅であらふさて其天麩羅もたん〳〵日本よ油を取られざる今とあつ〳〵ハエウ一杯食ふ者もなくなつたけれども其大役我の上色を飾つて仏の鼻までも奉拝の酒宴で居るが夫も天麩羅の中性ぐ〳〵足て性懲もなく遼陽や沙河の方面で食止める計畫であつさ是迄それも例の足掛倒しの天麩羅見勢ぐ〳〵飯の上の燗よりも造作なく奉天へづぶ〳〵と打拂ちれふソコで今度ハ奉天府羅と云ふチヨコ見世を開逃て行て奉天府羅と云ふチヨコ見世を開廃〳〵斯とあつて日本兵ハ又しても〳〵攻掛て行く〳〵是兵ハ奴等ハ箸も棒も持ぬ掛らあれ死毒の物ぶ〳〵云ひ乍ら其奉天府羅を目掛〳〵突拔統剣を突き通〳〵さんとさて天麩羅兵ハ塵氣芽漢と〳〵てどうぞ縮よ〳〵と泣ひさすぶ〳〵せ美揚句でさう〳〵



日本萬歳百撰百笑

○迂露〳〵艦骨皮道人

甲「航海ハ先ヲ立ずと云ふが、錨さま夫ゟ遠ひろゐ、逸隊船隊こんぶ重荷を積百まし〳〵、無暗ゟ行け〳〵と云ふが、餘儀なく育目滅法界ゟ出て来るゟ来ゟが、何ぞへどり〳〵いつやつサツパリ譯が分らもあんて「さうサほるゟふ帆を揚げて横道非道や、疝気筋を吹く〳〵ゟ来りやア、無論我〳〵の事を恥辱ざけれど、イクラ旅ハ道連と云ても、育目同士の鉢合せぢやア仕方がおい丙「全く閉口ー」ゟ云て帰りやア艦体が凍り附くゟ来りやアお先き真暗だ、イヤモウこんな懲〳〵事ハありやアしまぜん魔誤〳〵〳〵居りやア、例のヅドーンで横ッ腹へ穴をあけられるゟ何すても命あつ〳〵の物種ざい、寧そ足元の明る内ゟ逆戻り〳〵仕やうぢやあんの甲「さう廿南部見當が附ませんと云ふ〳〵て「四艘馬廉すて居るなア、是が本當ゟ艦を押し〳〵功ゟーだ

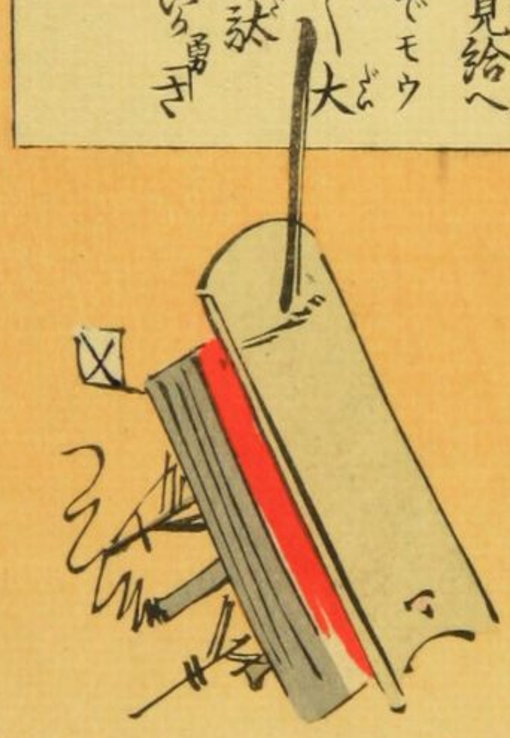


日本萬歲百撰百笑

○暴露製の安軍艦

骨皮道人

日露の開戦以来、我帝國の海軍が、仁川を旅順口、敵艦の八九分通りを裏沉して大勝利を博したので、左おきたよ名誉なる我が海軍八、平時も幾百倍の名声を高めたソコで無邪氣ある幼児まで、頻よ帝國万歳を連唱て、戯弄物の軍艦を顛覆して喜んで居る此處へ遊んで居るの猛夫と勇ましい云ふ最も活潑ある小児である「猛」僕八東郷司令長官ざよ「勇」君が東郷中将ある〳〵僕八此生少将ざよサア二人で此露西亜の軍艦を打潰して呉らうぢやないか「猛」ア、面白いね、夫ぢやア僕から始めるよ、ソラづどーん、ヤア顛覆つた〳〵打毀れた〳〵、萬歳〳〵「勇」今度八僕の番だよ君見給へ、ソラづどーんと、此弱虫め只た一度でモウ滅茶〳〵よ毀れて仕舞さ、万歳〳〵大勝利万歳〳〵「猛」すや〳〵みんなモウ眠目よあろ〳〵、一つも宜いのハ無いぢやないか勇さうぢねへ、又一戦で勝て来やう







日本萬歲百撰百笑

○割の宜い勝法

骨皮道人

是まで世間の風説では、大層手堅いの岩丈ぶのと、針ぐるのでも突ても貸棒も吹抜して、その癖當って砕けさうもの無いのが唯ある頁へないと、かり思つて、此要塞の迂度の大木をそぎ倒すと打つ茶羅かして、薬振を利せて置ての餘り活智が無さるる、自己ハ全体手強い奴を對まて、片ッ端から木端微塵よ吹ッ飛るのが大好くいの勝るだが、十ら腕を捻を掛く打砕きよ承知て見たんざら、実際力瘤を入れて見りやア、何ぞで見掛倒しの艦違ひよやア呆れ返ッて、然らづドシ〳〵と打込む度よ、直よ滅茶〳〵よ割れる、是を艦定して乃ると、モウ十五六艦もあるぶらう、是ぶ本當よ破竹の勢ひ、天下よ敵なしと、自己のるぶ、ソコで斯う打割たのを十抱一からげますると、二十束三文の直打もなのやうぶが、併し割りが宜いから打ても餘ッ程モウ勝さらしい



眞生

日本萬歳百撰百笑

○屠露氣武者

骨皮道人

あつい寒いも彼岸までとやらで、追ら時候も好〳〵あつく〳〵来るにかゝ、今まで青菜も塩で粟の粥を啜りヤット露の命を繋いで居る壱万兵乃一消隊も、雨ふいつまでも日蔭は顫へ〳〵居る譯も往ず、殊ふ雪でさ枯木まで花を咲せるかゝ、雲だかゝとて強ち一花咲かせられなくもも無からうとふ負惜らで、先づ負傷武消ふ出掛たのハ宜いが、何ふ敬せ是までハ身体が凍て居たかゝ、胴ふ斯ふ固つく居たやうなもの、夫が急ふ日の光りま照さるゝら堪ら兎、忽ち頭の素徹邉かゝ足の爪先ふ至るまで、ダラ〳〵ポツ〳〵と解け初めるので、まゞ鉄砲の音もやんない中かゝ、コリヤ玉乱〳〵と大溢ーふ溢ーて居ると退将コラ〳〵さう騒いでも今となつてハモウ消へ失るようふ外ふ仕方がないどうせ是かゝ斯う丸潰れの形無ーぢやア、面目ふ〳〵て人ふ合せる顔も無いから



真生

日本萬歳百撰百笑

○醫者も困つて　骨皮道人

自己ハ身体の大きいのを鼻へ掛け、面の皮も千枚張あつて嘘を吐き口も達者で、尤も目先々利もあるが、お先真暗ざつ、其代り頭勝でハ有を取らなが、ぐんぐんお者と首ツ引きをして居ても、大害負けの気味を以ハなのらうと思つて居ると、尚ほ図らんや、折角頼まれて居る海軍の片腕を斯う酷く打砕かれて、所戦もう二のほか継げまい成行く生兵法ハ大疵の原因毛を吹いて疵を求めるとハ云へ此儘転手固舞をして居る訳にも往まいが、何とも手ツ取早く療治もる手段はあるまいか醫者誠ハ早お痛安くハ応へ居る大坐いますが、斯様ハ骨身までも疵の事故迚も骨薬張位でハ追付ません、寧ろ思ひ切つて肩枝ハ成て仕舞ふ方が却て宜いでせう「イヤ夫ハ困る、思ひやなのいか醫ヤ本まなるまら猶負けるぜでハ座います「然ツく對手ハ日本だもの



日本萬歳百撰百笑

○水雷艇の大當　骨皮道人

日本の水雷艇が勇猛奮進、山を碎き海を裂ん勢ひにて、敵艦を目懸て進み行き「ヤイ露助、大男総身へ智恵が廻り兼たあの事だ、頭の傲慢ゆも似合ぬ、其様あよ逃腰を構へて相撲と思ふ、サア来ん、負惜みぢやアないが、自己あやアま前の方が強いと知らあいな、同じ大和魂と云ふ世界無類の魂が有ル、同じ突ツ競と云ても、手前達の嘘突や高慢の面突あんぞに全然でお突様とスポーン程の大違ひぢぞ、エヘン突こそ物の巧もの自己の事だ、ツーラ突くぞ〳〵……ソラ露艦ーと一本、今度ハ裏沢ーと行くのぶ、何ざ一突きつきやアみんお武芸くとうち込んで仕舞ふぢやあんな、どうぶ自己の腕前ハスパーらぢゃあらう、こふ云ふ事ア崔でさ、海中へ入れバ蛤まお露助ア海底へ旅行て、何ん社會の喰ひ物もあつて宜からう敵艦ハおれい恐れ入つて、夫ぢやア早速死時身よ成らう



日本萬歳百撰百笑

○小癪ッ危兵　骨皮道人

自己の事を日本では小癪ッ危兵ぢの虚弱兵だのと云ッ居るさうだが、何ぞでも勇あり勝ま〻ふ勇が宜いサアて海軍が手も足も出ぬくらゐまでドシ〳〵と横ッ腹と打抜れ〳〵堪るものゝ、尤も日本ハ相撲取できゝ、四十八まであると云ふ話ぢゃ、軍人ハ何様な奥のもあるの知らぬが併し斯う云ふ新發明の兵の死度もの〳〵出りやア何處がどう来ても先大丈夫ぢらう、右から来れバ劍で防ぎ、左から来れバ槍で受る前から来りや鉄砲があるから後から来りやアミヽハテナ斯うあつ〳〵見ると脊中まで二三本ぶち込まれるが欲しくもあつてイヤまの悪い時ハ足の部を遣やつ、ポーンと桂馬の高飛を極るらオツト待つよさうするやつハ馬が驚いて跳繰返る其途端ヨロ〳〵ドターリと来てハ困るが其時ハ何ぞ宜からうとアヽ落馬苦の種だ



日本萬歳百撰百笑

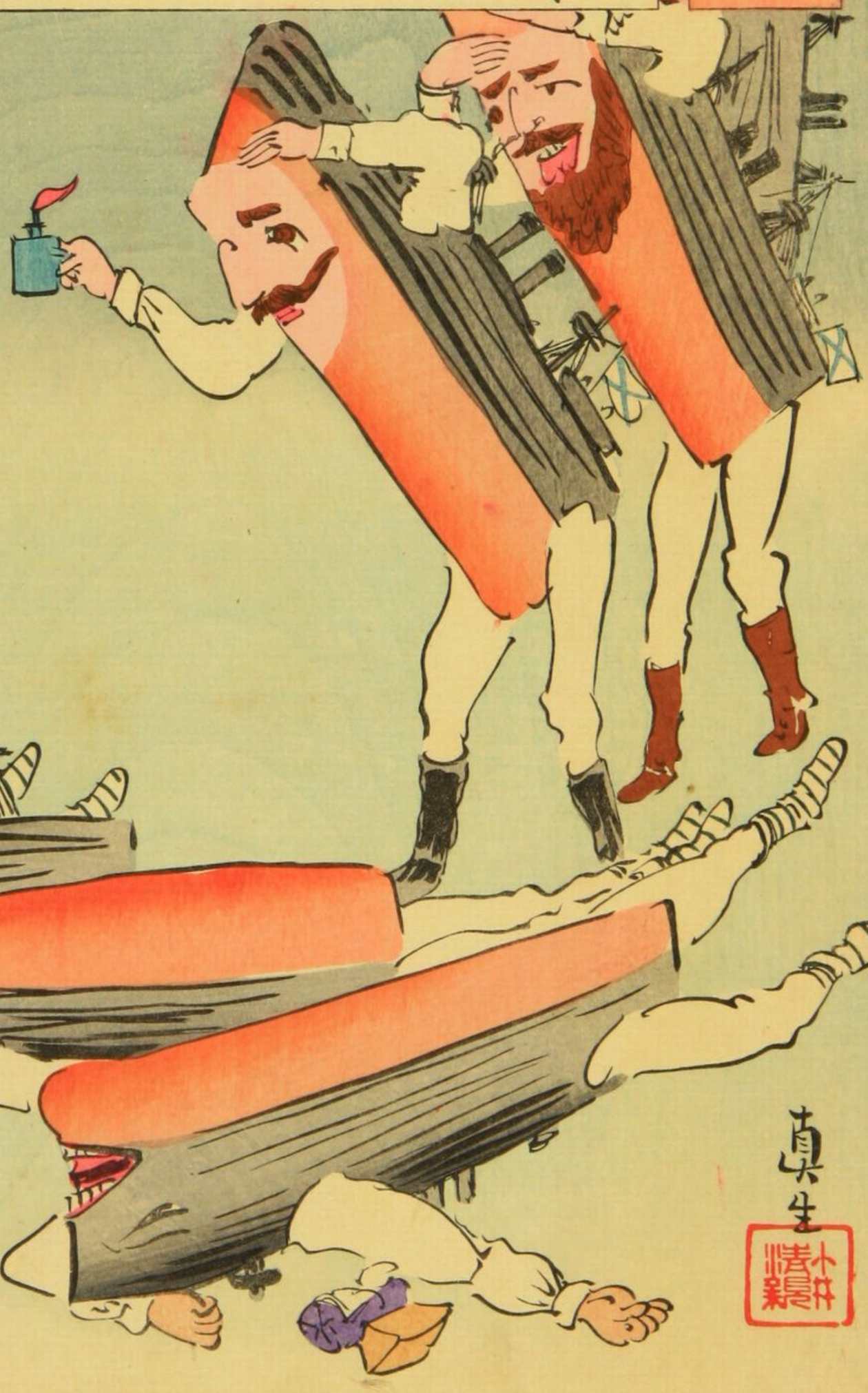


真生

日本萬歲百撰百笑

○露艦の閉口　骨皮道人

夜ハ怖いゝ内ハ居て盆間ダケ出ゝと云ふのハ、随分臆病者ハ有中の事ぢゃ、白盆ハ日本艦隊ハ打ッ拂ふから、夜半頃ハ盆と孤單ゝ出歩ゝと云ふのハ、餘ッぽど風変り乃臆病ぢやアあんが「さうサ氣の利ぢ化物ハ引込むト時分ハ化物と云ふ何ぢ変挺未乃ものが居るやうぶぜ」ドゞ何處ぞ奴ア閉口ダあア「ムゝア鮮ぢ是が噂さに聞く日本の閉塞体ぢ」十二日ハ日本ハ豪んい早ゝ逃去ゝ「ハテ元の昭ゝ中ゝと云ふ通りかゝて、仕方がないアア兎ぢ角生体を見届けやうと、おッかな吃驚で遠ゝの方から歌き込みゝ閉塞体ぢ達ひあんゝどゝも日本ハ豪んものぢなアア露國の方ぢやア無百断ぢ負て計り居るから、夜も碌ゝ〳〵眠られやんが、此苦ーみぢ引替ゝ日本の兵ハ実ぢ美ましいナゼ「然ッて此處ぢ探て居る様ぢを見ねゝ、みんな太平樂だ

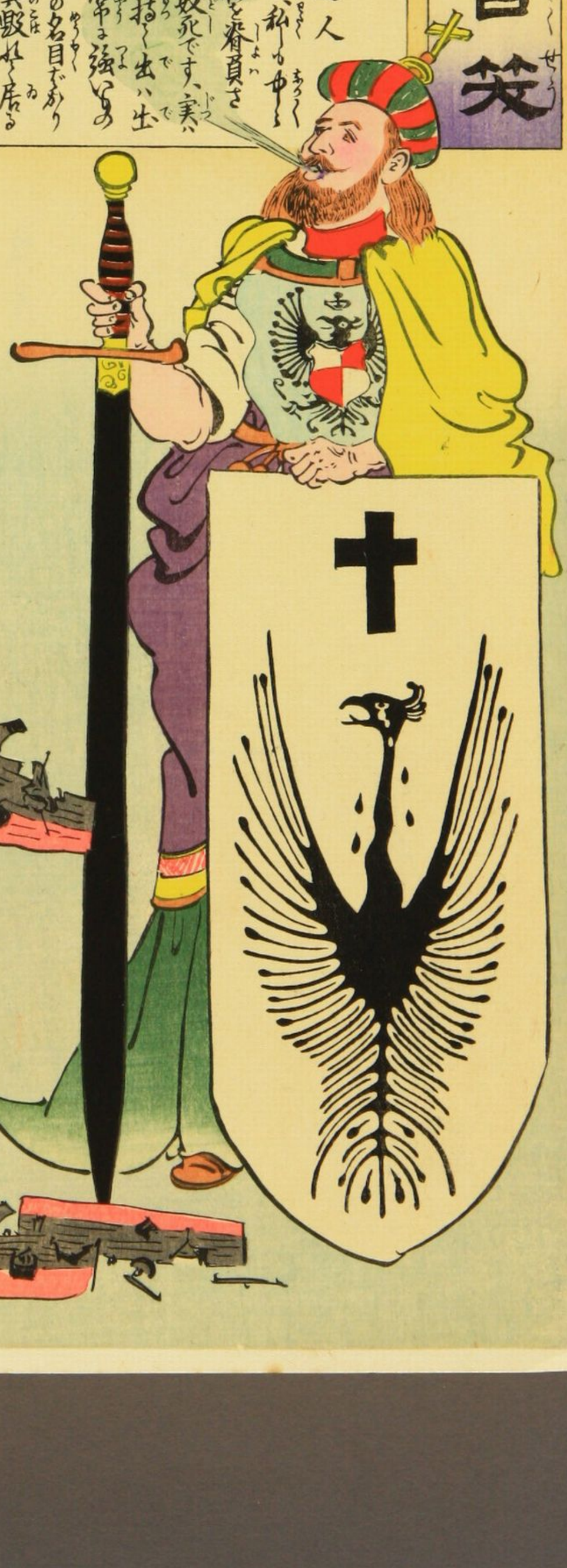


日本萬歲百撰百笑

○敗艦の死末

骨皮道人

平生大風呂敷を廣げる事の不運奴ー
負あの性質ですが、戦争の垂幕を看貫さ
れるに未だ、海軍獣医の名目であり
ますが、仰せ随のまゝ敗艦の雑形を拵へ出ハ出
ますが、誰が教せ日本の非常な強
ですかゝ、どれも是も唯軍艦の附け
残って居るやうな死末でゝ、其敗れ居る
不体裁ハア大害同ド様でハ在ますが、
併し此艦あゞハ破敗の中でも幾ら形の殘
つゝ居る分でゝ、其外ハ鋪まるとの附け
やうのもんミモシ来人ろさう音息ろう吹
て居るので、どうぞ之を亜賢下さい幾許の栄
降の種も成りませうかゝ「コラゝ何を申、
そんな恥の巣のやうな物ばかり拵て来
て何の役に立つ様な其況ろも餘程大
負が多ゝやうゞ、其方ハ一作の氣で逃て
のる「敗、餘り負續けゞ全ゝ蒸汽が無
ゝなりまゝゝ



日本萬歲百採百笑

露兵の弱無士　骨皮道人

甲「日本の軍隊が何ぼお強くって、相撲や芝居を見よ切ふ命が惜ふ云ふ一件ぶりの、此様ふ剣呑な役廻りはありやア仕ねひ」「さうサ急長ハ該當よまつ込て居るから、ソラと云やア直ぐ逃出すてふ事よ、自己達のやうな斯うお先ふ使ふる者ハ、ヴドンと来りやア直よバタリだらく堪らねのナア、あゝ露國の斥候兵が、例のオツカナ吃驚でノソ〳〵出すと、其斥候兵ハ瞻を丸めて居るから、サツパリ方角が知れないて唯マゴ〳〵して居る、スルとモウ目が眩んで居るから、サツパリ日本兵の人形をニユーとして供芽ハ面白がつて「ヤーイ〳〵の露兵行くのだ

日本萬歲百撰百笑

○危險綱渡り　骨皮道人

彼の露西亜めが、弱い癖に日本の強國を及向ふとは、止せば宜いを
恐も無いと思って居ると、労して
剣呑呑ん命がけの藝をして居る
綱渡りと云ふので、先づ内幕
を打明てみると、古鉄砲の
二束三本ぐらゐ、毀れ軍艦
の帆柱へ命の危
引張て行き、
其上で溜
息を突きあぐんで
躊躇る図



舞をするのぶの、
何ーろあの方ともに當まあのアヤフヤの死露物ぐー、お負よそこ下ハ
色青の蒼の向ふ水と来て居まあぐろハいてト面の皮ぶ厚くても、目先ハ利ずず
足元ハ武士散と云ふ一件ばかりにして此狂ろが満足生未やう許ぢあいまと二生
懸命ぶ無鉄砲をねう無槍を振廻らして悪面ぐと調子の合ぬる枝どう
綱渡りをして居るさうぶの、其様ぶ馬鹿ーん藝をしても、人習並ぶ飯ぶ食ぐ
行くものぶらう。十一二飯ぶ食へあんぐー栗ア食て居るぶ。



日本萬歳 百撰百笑

○愚迂の音も電報　骨皮道人

取次「申上ます、只今戦地より電報が参りまして、十、十二電報が来ると電報が、ハヽ早く〳〵早く〳〵見せろ〳〵、海軍が丸負の代りあい陸軍ハ無論大勝利だらう〳〵ム、陸軍第一戦報ゝサア奥も来て見ろ、此報告で少一ハ溜飲を下るぞらうと、其電文を読下せバ

四月三十日より翌一日ホ湖より日本軍ハ最も優勢ある鋭兵を以て我軍を襲撃し為めホ砲畳七ヶ所を陥落られ哥で又九連城と石領せられ止を得ず或方面へ潰走するを打此戦闘ニ於て連射砲廿八門及多数の小銃弾薬等を分捕られ軍團長ハ重傷師團長ハ戦死其他将校士卒の死傷二千餘名猶砲兵二中隊ハ白旗を掲げて降伏し将卒約一千名悉く日本軍の捕虜となりくり右報告す大勝利と思ひの外又〳〵大敗北の報告であつたので、チエー残念ざと俄ニ歯軋りをして悔敷がり「自己乃國ハナゼ此様ニ負けるのぞらうと云へバ奥方も涙を溢し「妾も勝てんが〳〵来りまへん



日本萬歲百撰百笑

○ちやんと落嬢　骨皮道人

祭礼のチヤン〳〵廂、音の林や、太鼓のドンドコドンドコ、花車曳の牛も威勢よく足を運ぶのゝ、同じ様に聞ても、日本軍ゝ片ッ端ヨリチヤン〳〵と攻めて来ゝ、太鼓のドンドコドンゝ、ろく大砲のヅドン〳〵で牛荘のドンチヤン逃げ出すを、追ッかけ〳〵、ドンチヤン〳〵、遂ひに来たやア、庆神楽のドンチヤンと、聞ても居られぬハテ牛の音も出ぬ、だゞ流石の牛ゝ爺も頼りよ兵素投首で弱り切て居るまゝ、日本軍の為めよ退却ら〳〵、兵隊ゝ海嬢ゝ、サア行くハ龍宮ゝ、あげハ覚束ゝ、命からゞゝ逃付て来て海コレ牛爺やゝ、お前のハぶ其様ゝチヤンと、滝ー込んで居るまゝカヽ、イクラ落付て居るまゝがお前の性質でも、さうノッくりして居る日ゝ、あゝ人今ゝ日本軍ゝ来ゝらどうするゝ積りだねへサアお生で妾ゝ一存よ逃げてあげやう牛コレ夫ハ有難いどうせ斯う成りやアモウ牛まハ居られぬゝ

日本萬歳百撰百笑

骨皮道人

一本足の貧物　曇

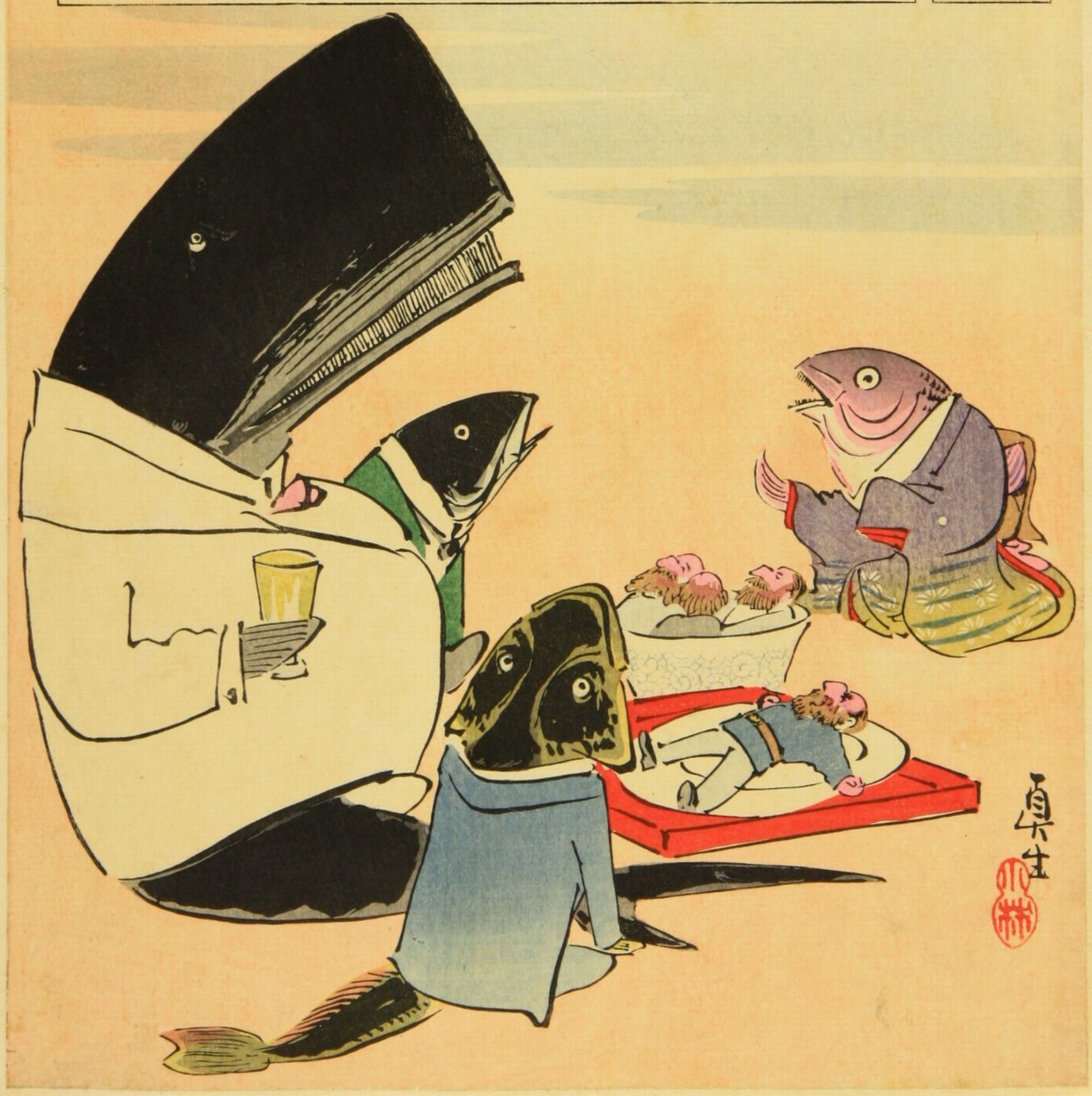
甲「イヨー妙奇な物もあるさよのぐ
一ツ目小僧だろ二ツ目入道だろ二ツのハ
ヤイ物もあるが一本足の化物ハ是奴ア
面黒狸さ」十二狸おやあるまへ大きな長
靴を穿て居る所を見ると皮嘘ところ洒落
る知れあれ丙「イヤさうぢやない乳を利ー
化物なく〳〵靴を穿つく居さうよのぐ此
奴ハ大怪我をしてメソ〳〵泣く居らふら
痛血が知れる足「エ化物ぢやない実ハ海艦の
て早く〳〵と云むのでナけそ存ドの通り旅
メシトリークイ艦長でござい日本
順ロカノヤウト脱出しる所を軍艦
艦隊ニ見附りまして仕舞
艦も身体も忽ちチヤアフウよさして
まふ其時片身ハ残つたのが即ち此脚一本で
也座いますかく化物で負け物で也座
います甲「何ご負け物ぢやそんな腿ハおまて
らあゝ助けてやらう足「ヘーお助け下さん
ますゝ〳〵有難や片足あや



日本萬歳百撰百笑

○溺合の馳走　骨皮道人

「お鯛さんの何時見てもお赤くてお日出鯛ねえ」「夫ぢやア鯆徒等もお顔が見鯛の逢ひ鯛のと、尾ヲ鰭ヲ附て評判して居るまぢよ鯛「オヤ憚う様、何と奢りませうオホヽヽサア且苦いありませんが、アアお一ツ召あがつて下さい那是ハやんの溺合の死落物で餘りおい死ます鯨「イヤ是ハ隊死ヽ驚ヽ定め上のいぢやらう鯛「変がああ、是が見掛倒しで立派な実ハ買被りのでお座います、勿論此奴ハ著も棒も掛らぬ食へない厄海物ヽ雪ヽ居まヽ成ヽ面の皮の厚い割合あ、骨身も少しも應へがりませんで然ヽ腹黒の癖ヨ瞻ヨ小恋ヒ虚ヽお員ヨ腰抜で疝気筋が多くて存外お歯ヨ合ハあいきうでお座います鯨「ム、菜幷かい、兎ヨ角一ツ食てやうと、と無造作ヨハクリ、お鯛ハ驚ヽ鯛「オヤヽ旦那ハ少しも噛ず呑ヽ此位おらのハ何時でも



真生

日本萬歳 百撰百笑

○浦汐の大困難　骨皮道人

旅順が陥落すれば、其次ハ無論浦汐ヨ極ツて居るが、何時暗打本軍ヨおツ拂ハれるから、足元の明るい中ヨ早く立退あく、て成らぬ〳〵ものぐ、何ぞも、上を下ヘ、と騒動するヨ「サアどうだ、支度ハ出来たらさ支度ハミミエ、婦人とゆうものハ、役ヨ立ヌものぐ、一寸そこの何を取て呉れ何を、エーくらちのあいそんな金まん、ざア打棄ても宜いソラ靴を冠ツて、十二帽子が無けりやア跣足でも宜いぢやなひかミサア、仕度ハてもう出掛やうミミうんとこドツコイミミ、大重い〳〵、誰ぞ此様ある荷ねせるものぐ女房「誰、かツて良人、みんな良人が支度を成すツ、なんぢやありまセんか主「まア何でも宜い早く行ツのでも座いまりを、何ヨ女房「然ーて是から、行て宜いか、自ヨも返答が附ぬ

日本萬歲百撰百笑

○難でも兵器　骨皮道人

乃公ハ全体頭勝だと云ふ評判ゆゑ、先づ斯う頭のまゐ徹甲を二ツ載けて、砲台を進めーと西落ゝ夫かゝ左のゆふ按排燈を輝らーて、若敵兵が来ると見ゆら、右のゆの鉄砲でツトンと打つ、万一打損なつゝ先方ゆら突貫と来た時ハ、周囲の鉄條網でヒタリと防ぐ、其鉄條網でも破らるゝやうあら、足元よりお設である地雷火を爆裂させる、オット待て地雷火を爆裂させるく、敵兵ぢりゝ乃公の対体も粉砕微塵ミヽ大変ゝ万歳乎ゝ、夫よりハ好い考へがある、是ぢゃ用心堅固ゝ、愈ゝ負けとも、ハ白旗を立すて居ても、ソレ白旗ゝと云ても百ゟ合あつゝ困るらゝ、ア前以ゝ眷中ゟ眷頁ゝ居る限るゝ十分進十備をして、窓ゝ行てゆあゝ之を捕虜は、ゲ後ろゝゝ入て居るゟゝ日本兵た、スルと其兵ハ吃驚して「イヤ後ろが来らしなので死ゟ無かつゝ



日本萬歳百撰百笑

。難でも兵器　骨皮造人

乃公ハ全体頭勝だと云ふ評判なら、先づ斯頭の赤徹を二砲基を二戴けて砲塁進めーと洒落こと夫か、左のもふ抓あ燈を揮ーて、若敵兵が来ると見たら右のもの鉄砲でツトンと打つ、万一打抜なつく先方ら突貫と来た時ハ周囲の鉄條網でヒタリと防ぐ、其鉄條網でも破られるやうあら足元よおいらである地雷火を爆発させるポットばて地雷火を爆裂させるく敵兵がタリ乃公の身体も粉砕微塵ミヂメく大変ー万歳牛く、夫ようハ好い考へある是ゐと用心堅固にて居て、命と負けと云ハバ白旗を立すとの奥の手があるから、然が見も名恥ハなるく、ソレ白旗くらでも百本合あつく困るやうアア前くく脊中ハ脊頁くく居る限るく十分準備して待ーて居らふと、日本兵が後ろくく窓くくくてもあーと之と捕虜にたスルと其あ兵ハ吃驚して「イヤ後ろが来られるので死ぬ無かつ



日本萬歲百撰百笑

一本足の貧物　骨皮道人

甲「イヨー妙音を列ぶる化物もあるよ」

一ツ目小僧だろう二ツ目入道だろうろくろのハ女だろうもある、一本足の化物くらい是奴ア面黒狸さ「十二狸おやアあるまの犬きう長靴を穿て居る所を見るし皮嘘とふ洒落うも知れあ而「イヤさうぢやあるまい皮嘘乃化物ぢゃ〳〵靴を穿て居さうなものぢゃ、此奴大怪我をして〳〵泣し居るから痛処も知れあ足イ化物あっと乳ン利ー丁卓〳〵」とむのですけど、実イ私ン海艦のメントリーク艦長でござ存ドの通り海艦順ロかヤト脱出ー所を宝ろ〳〵日本艦隊ン見附りまーシ為めに芝栄ころう艦も身体ン忽ちチャアフうまし〳〵仕舞ー〳〵其時片身ン残やのが即ち此時一本で内座いますから人化物でありふ負け物で市座います甲「何ン負け物ン、そんな腿ハおもて脱ら気ン助けてやろう足「ヘーお助け下さんますか、ア有難や片足あや



日本萬歲百撰百笑

○ちやんと落嬢　骨皮道人

祭礼のチャン廂音林や、太鼓のドンドコドン車、花車曳の牛も威勢ヨ足と運ぶのも同ー〳〵チャンと云ても日本軍ン片ッ端ヨリチャン〳〵と攻めて来ー、大鼓のドンドコドンどころか大砲のヅドン〳〵で牛荘のドンチャン騒ぎし来ちやア庆神楽のドンチャンと違って是ぢや営口〳〵おんぞこ呑気ン酒盛ても居られあハテ牛の音も出ないくらいだなし流石の牛爺も頼りまし業投首で居ちまう、是も日本軍の為めの辛抱ろく兵隊〳〵海嬢ぢやア行くハ命丸あげハ覚束ないも命ぢらいぢゃ近付て来て海コレ牛爺やお前ハお其様ぢやア澄ー〳〵で居ーのかエ、イクラ誘付て居ようのお前の性質でもさうノックくして居ると日あアハ今ン自本軍が来ーぐうすると狼だねへサアお生で妾ン二疋ヨ逃けてあげやう牛「夫ハ有難いどうぜ斯う成りやア、モウ牛ヨハ居ろれあいよ



日本萬歳百撰百笑

一本足の貝物　骨皮道人

甲「イヨー妙奇な物もあるものだ

一ツ目小僧だろ二ツ目入道だろ二ツ小のハ

ヤアあるまの大きな長

面黒狸だろ十二狸おやアあるまの皮嘘乃

靴を穿て居る所を見ると皮嘘と云ふ洒落

る知れあれ西「イヤさうぢ

化物なら乾ら大ツて居さうちよつぴり此

奴ハ大怪我をしてメソ

痛血が知れあれ足「イ工化物

て早く逃むのですけ

メシトリークイ艦長でござ

順ロカノヤウト脱出

艦隊ニ見附りまし

艦も身体も忽ち

まつ其時片身ハ残

内座いますか化物で

います甲「何ぢ負け物

らあゝ助けてやらう足

ますゝア有雑や片足



日本萬歲百撰百笑

○ちやんと落噺　骨皮道人

祭礼のチヤン癈音の林や、太鼓のドンドコドンあゝ
花車曳の牛も威勢よく足を運ぶのが同
ー・チヤンと云ても、日本軍ゲ片ッ端うトノチ
ヤンくと大砲のゾドンくで牛荘のドンチヤン逃ぎ
ろゝ攻めて来て、太鼓のドンドコドンどこ
し来たやア、庆神楽のドンチヤンと、違って
日ぐりや営口くなんでも呑ん気な酒落
てゐ居られあゝハテ牛の音も出ないとは仕す
だく流石の牛谷も頓りよ兎来投首で弱り
て居るむくう、是も日本軍の為めよ迷惑ら
ゐく兵隆ー海嬢ぐサア行くハ龍宮丸
あげハ覚束あくも、命ぐらゞよ託付て来
て海コレ牛谷やゝ、お前ハまゞ其様ちよチヤと
溢ーこんで居まゝカエ、イクラ落付て居るお
がおの性質でも、さうノくして居る日
ゐやア人ぐさ日本軍ゲ来ぐゞどうすゝ頼
だれへサアお生で妾が一所よ逃げてあげ やう
牛「夫ハ有雑いぐう也斯う成りやア、モウ
牛よハ居られあいゝ

日本萬歲百撰百笑

摩天嶺の弱腰　骨皮道人

摩天嬢「アラ悔らしい表助めが、又逆戻りして来ましよ様子嬢「本当に恥知らずねへ、和一さん今度は思ひざま打懲してやつて下さいな」何を吐かすのぶ斯うぢやア、目下八日本兵がおさえぐら是あつたつて一生懸命よあつてきて魂消て、怖くなつて、ものぶ赤くなつて、ものぶ赤くなつて、ものぶ赤

日本萬歳百撰百笑

○露將の震軍 骨皮道人

露國の陸軍提督が怖〳〵兵卒の先よろ〳〵
「コラ〳〵樣達ハ何を其樣なビク附〳〵居るのだや、
早〳〵進まんか進め〳〵日本軍がイクラ圭やうとも、
那う自己が先よろ〳〵〳〵進むからにハ必ず
ビク〳〵するにハ及ぬんそ甲「一す挽督
閣下よ何ひます、先刻より半人公の
市牙俸が顔よブル〳〵顔〳〵
居ますが、半人公も矢張日本軍
ざお怖めぐくと「ハア自己の
牙俸の顔〳〵居るえイヤ
して左樣ぢやらぐ、天下の
英梯さる者ハ常よ勇気が充滿れ〳〵居〳〵、
夫ぐ顔〳〵右うしてこんて〳〵まだやらぐ、是ぢ即ち
武者振いと申すものだやて「へー夫だやア私共も
日本軍み向ふて、いつでもブル〳〵顔へますぐ、是ぢ
矢張り武者振ひでも座いませうの
「馬鹿を云へ、貴樣達のハ全く怖〳〵そ
顔〳〵るのざくと、夫ハ無茶顔へ
おやと誤魔化せバ一人の
兵卒ハ小声で
「是やアふるへ
酒落ざ



日本萬歲百撰百笑

○大和王の内馳走　骨皮道人

日兵「貴様達い人体丈夫の度胸も腹も何ともあゝ癖よ、遼東半島や朝鮮まで、ろく〳〵丸呑すやう掛てゐやハヤ言語同断不埒の至りぶん殴つが自己の目の前つらあ大和王様ち湯とで栗の白い汁ハ吸ハせなから雨う思へ併し其代りよ斯う云ふ物を土間玉横ッ腹へ食すから、サアどう〳〵喰らひ込が直ぐ大和王と云う〳〵大砲台の勝満たのう、半人様達よ〳〵喰らはれるよ、死極めて附けの死霊物ざ露兵「敗う〳〵恐れ入ります」同「鉄砲ご弱のあるのでゝ、海苔巻の鉄砲ご、玉子の焼ゑでなから、何時でも来い〳〵慮あくパク附きますが、大和王の内弛走だから、誠よ早や兵隆の重う〳〵ゐ庫くます日兵「そんよ逃便をーあのゝ玉ゃてよ牛を仕く見さう宣ちらう露兵「イエどう仮ーまて、元く〳〵私共ハ本存ドの通り、見掛倒の喰一方ゝ師郎ですから、マア免業ッて逃出すホガギります

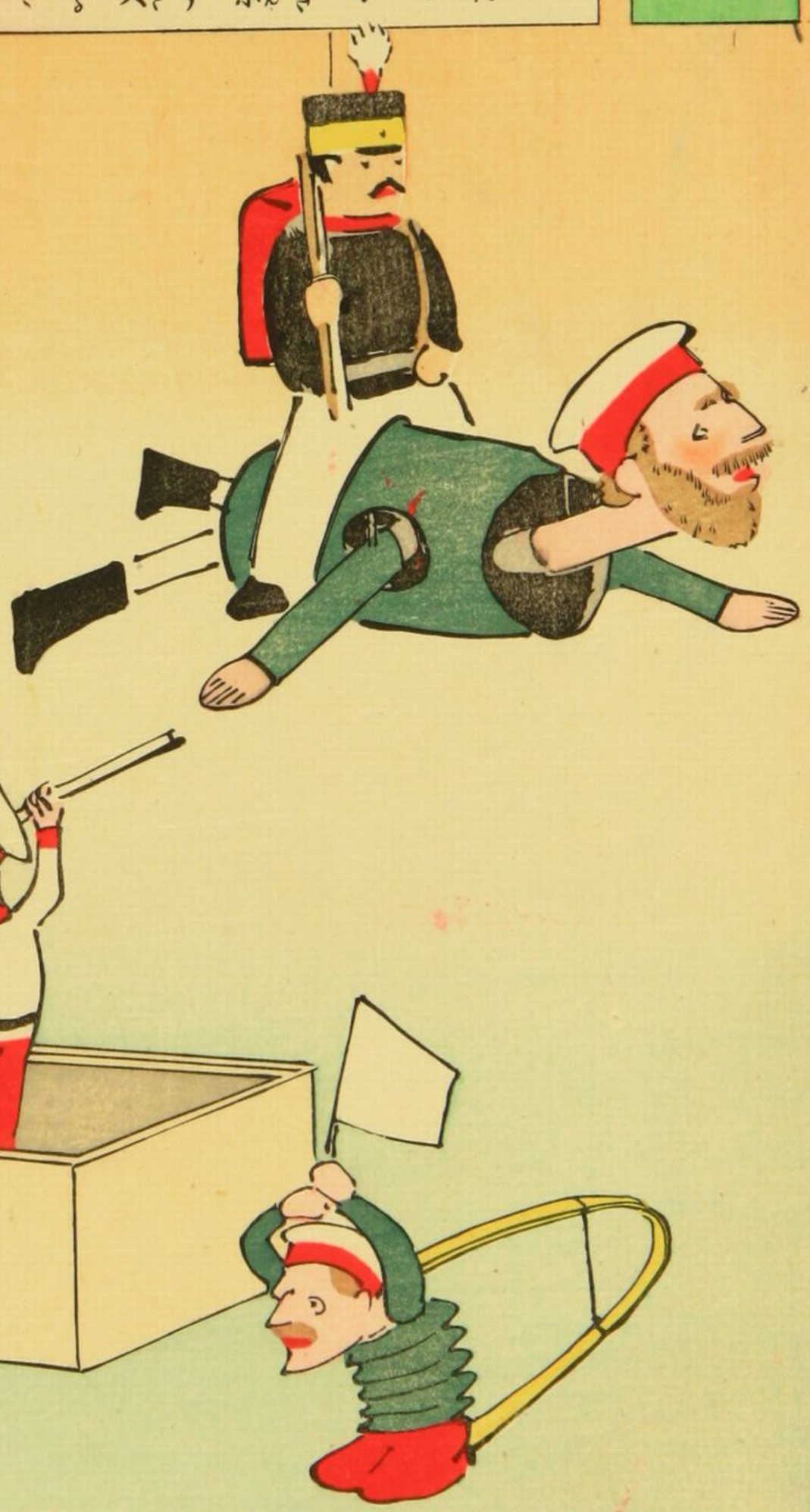


日本萬歲百撰百笑

骨皮道人

○戦捷諷刺物

サア〳〵皆さんお笑ひ草までゞも御覧おきハなし、露西亜兵を我日本軍の強い力量と比較れバ下ゟ段〴〵の者ゟ下等の露西亜の弱虫の露西亜兵を我日本軍の強い力量と比較れバ下ゟ段〴〵の者ゟ下等の兵隊で、其戦捷の紀念の出来ました新案道具の先で拾ひ洗ひ清めやうと云ふ事ゟ、其戦捷の紀念の出来ました新案道具の先で拾ひ洗ひ清めやうと云ふ事ゟ、実に下等の兵隊で、無暗ゟ白旗を振る軟弱者物であります、此西亜兵が匂ひ嫌ひ遁げ出せバ、日本兵が方採これを打掛ひ又飛出せバ日本兵が方採これを打掛ひ又大抱袋の立虚で、ピヨコ〳〵とお辞儀をして、無暗ゟ白旗を振る奴ゟ、其後の中ハ丸ッ切り亀の甲と云ふ事もほんの、縦ひ馬鹿でも間抜でも、人皆無の面乃皮を被つて居る上ハ、少しハ人智ゟ小憂があるべき筈ゟの処、此奴ハ頓と平や活智乃ない兵隊ゟ、唯ゟ目や首をモガ〳〵動かして居るたゞりゟ、日本兵ハ幸て之を面白がり、威勢よく其よゟ乗込んで、這ひ〳〵ぐん〳〵と云ふ事であります、サア〳〵どんでも撰取り一滅、ドシ〳〵勝て下されハ何程でも買て置きます





日本萬歳百撰百笑

○吐瞻の苦〳〵身　骨皮道人

露國の奴等ハ全隊理も非も噪々の附ろをへ、物事の道理と云ふ、皆無呑込の悪い猿真の癖ゑ不将死極まる旅順口と云ふ身分不相当の大口を掠奪して、種々の支那物まで丸呑と出掛け、鵜呑鷹の目で居る張り屋へ俗のごとく日本兵が飛込んで行く、窮と云ふ日〳〵喰ふ〳〵掛ろうとしても其咽首をメつけ日兵「サアメたゞ〳〵自己が斯う日本の強弩で取り締ろうみハまゝがイクせやア仕まいサアどうだ今まで無茶苦茶の喰ひ込んで居る軍艦でも大砲でも一切吐出して仕舞へ若し吐出さぬと打り殺すぞ、畢竟首をこ枝〳〵哀しッ〳〵の虫の息まで止め〳〵呉るぞ露兵「オ苦しゝ〳〵どうぞお助け下さるやう命さへお助け下さるなら〳〵何でも銀でもみんな吐出します〳〵仕舞ます〳〵と目玉を剝ひまわす〳〵どう〳〵せう〳〵ながら死露苦露苦ー

「ア、嘔吐い目よ逢ハされる



日本萬歲百撰百笑

骨皮道人

○ヅドン勝

日露戦争は就て、日本の大勝利を当込よ扨〻砲のねらい打とゝ云ふ新工夫の遊戯が出来さ女「チヨイと旦那、一度お打被成せな、勝利の印の方ま、、煙草のお景物をヤレ上ますゝとミアラおまけ通りですゝ、其様ある退却なのぐ、チトも進撃あをでせな、白国攻撃で敵兵士が飛込んで来〻兵士「イヤごんあすの、自己が片ツ端ゝぶち放ーて呉らう、と云ひ地の占領もお手のみですヨー、あゞ〻頻ゝ通行なのぐゝ、其浜砲をおゝ執ゝ呉や九を城でも風凰城でも、或ハ金州城摩天嶺でも覗ひの喜を呼んで居る内に、成功〻〻一人の日本違ず千ヅドシ〻〻打お怒るき女「アラホンお手柄ゝきまゝ次ハ海城ゝら遼陽奉天府ですゝ、夫丈い事ゝ、お喜い事ゝ相へと誉そやせば兵士ハ意気揚〻〻鼻ひ引きやや、「十二十ひ勢ひ衝まで打お放すのぐ

日本萬歳百撰百笑

○命の白い物　骨皮道人

露西亜大ちやア自己ハたう〳〵思ひ切つて出陣するが時移る
ゑ〴〵勢きの元ぢや十二日午前ぐらイクラ強いの素
でしつこいのこと云ても自己の方が身体ハ大きい
足ハ長しイザ逃ると来りやア決して自己ハ負ぬ
なら積りぢや自己ハもう逃けつ一方と覚悟を
極めるとソレ此通り一滴の涙も出ずに〳〵
然〳〵お前もモウ〳〵其様あよ泣て呉
れるなサア出掛るぞ〳〵止めるあよ
廿尺一十二妾や泣
きも止めも仕ま
せんが併しまた逃
るとハお言葉
をきつかけあれやうた、
此夜前屋ぢ逃げ
負ぬ安く下さいけれ
ども又どうこふ縁の
人まで掛られあつて
限〳〵あいろ〳〵其時の用心
ま〳〵思ひそれ様お白旗を拵へて〳〵来ました〳〵
露ぬ〳〵白旗ぢ〳〵夫ハ何のよ白ありがくない世よこそ、
命の白い物がなぐ〳〵其活劇の
居ると言でさく可笑と思つて
ヒ、ンウフ、ーン



日本萬歲百撰百笑

○日露の太刀合　骨皮道人

露西亜の奴等ハ総体生倉者で性質が悪いと聞て居ゝが成るほど斯う太刀と太刀とを比べて見ると露西亜の太刀ハ日本刀のやうに金鉄腸の統が粗で鋭錬あげゝ切味ゝ遠そみん〳〵お鈍刀もの〳〵悪い太刀ばかり〳〵夫ゞか〳〵遼刀半刀を横取する氣もあつてのざらうが、何ー〳〵其様な武力細工でも考るやうな暴毒〳〵の刀物をふん〳〵振り廻して未やうとも人類の魂が鋭へ込んであるゝ、縦ひ百万軍の敵が刀向つそよ人飽れバ人目太刀の見へも見ず勢ひでよを斬り馬を斬ても云ふ勢ひでよ昨日本刀ま、大和魂ゝ云ふ世界無當り次第ドシ〳〵生首をチヨン切つるゞサア太刀合てもりのまゝ太刀合て見ろ此度その戦刀力を打ッ挫ゞ見せる露兵「抜けぞ丸散る氷の刃ゝ云ゞ、如何さ日本刀の光を見ゝ日ゝ、猶も魂ル忽ち顫へ上ゝ是りや実よ鋸へぐ

日本萬歳百撰百笑

○大兵隆の自劣込み　骨皮道人

餘り真氣臭い時ゐ、棚の達磨さんをチヨイと卸して、鉢巻でもさせるのぢゃ、就爲等のやうか斯う自劣多苦あつて来る日ゐやア鉢巻位ぢゃ却つて追附ぬが、頭の腦天へ氷ぶくろで縛りつけて、氷嚢進めつゝ来るのぢゃムヽ是が本統ヨヒヤヽ神よ此軍艦だけハ破壊れぬやうよ満足を與へ賜へミヽヴトンヽヽ、アヽ又打毀るゝ、此奴ア仕方がねえミヽ神よ今度の、破壊ぬやうよ満足を與へ賜へサアどうだ、ヅドンヽヽ、是やア露西亜がったんぢ、又ゐ打毀れるゝで、エヽ仕よ、毀るものハどうせ取返しが附あへから、是ハマア密と他人の見ない後ろの方へ隠しつく置てそして、今度ハもつと丈夫な軍艦の欲しいものぢと云ても皆ゐ暴露製斗りぢ弱ゐも尤ぢゃ、併し斯うあつゝ見ると、どうしても武力ぢ作らあちやア抗抵駄目か知ら何ろ是ぢやア大兵隆だ



日本萬歲 百撰百笑

○九連孃の兵氣　骨皮道人

九連孃「人ハ人掛ニ依らぬものぢゃ、成ほど絆ぢゃ、唐蜀秦のお子のさんも手柄ある、そんな手柄をさせて、碧い眼玉をやうな赤髯を生た者さへ倒して、ピカ附ぢゃ居る様なでくぢゃ、安堵して、先づ貧乏神の様な捉灯籠の中で、三十六計の中で、どうにも取ようのは、加之まあの國の退將「夫將ぢゃ、立派な肩書まで持て居ながら、肝心な戰爭に来ては、一ツ逃げるのでさへ、知よりも迅奴の急僕、狐怪威かるも祖ある退將「夫アロの先でこそ雷ういやア、ヲヤ実際日本兵は攻立らるゝ見あぎ以ヅドーンと一發ぎやフンぢゃ、あゝギヤフンぢゃと云の中ぐらい沉着て居られるものと云て居る矢先へ、日本軍は鴨緑江の霧軍を撃破つて、益々奮進突撃して来ぐ大砲の音「ヅドーン〳〵〳〵、此音を向て吹將ハソラこそ大変と、九連孃を見捨て一生懸命ぢゃ乱〳〵

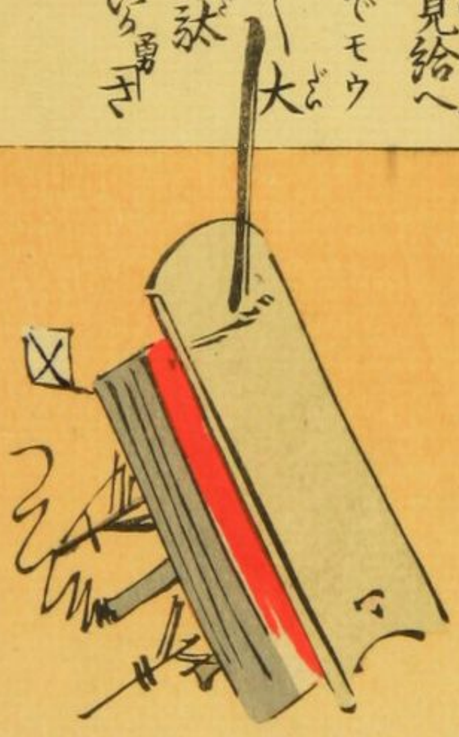


大兵降だ

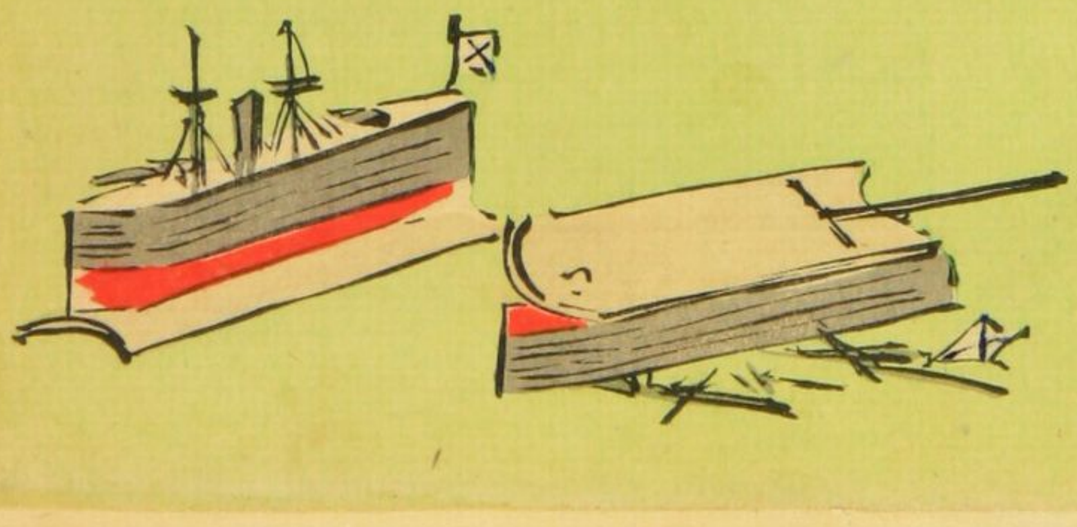
日本萬歲百撰百笑

○暴露製の安軍艦　骨皮道人

日露の開戦以来、我帝國の海軍が、仁川を旅順口、敵艦の八九分通りを裏沉して大勝利を博したので、左おきだよ名誉なる我が海軍八、平時も幾百倍の名声を高めて、ソコで無邪氣ある幼児まで、頻よ帝國万歳を連唱て、戯弄物の軍艦を顛覆して喜んで居る、此處へ遊んで居るの八猛夫と勇と云ふ最も活潑ある小児である「猛」僕八東郷司令長官ざよ「勇」君が東郷中将ある、僕八瓜生少将ざよサア二人で此露西亜の軍艦を打潰して呉らうぢやあいか「猛」ア、面白いね、夫ぢやア僕から始めるよ、ソラづどーん、ヤア顛覆つた〳〵打毀れた〳〵、萬歳〳〵「勇」今度八僕の番だよ、君見給へ、ソラづどーんと、此弱虫め只た一度でモウ滅茶〳〵に毀れて仕舞さ、万歳〳〵大勝利ニ「万歳」猛「すや〳〵みんなモウ眠目よあろ〳〵、一つも宜いの八無いぢやないか「勇」さうぢねヽ、又一戦で勝て来やう







真生

日本萬歳百撰百笑

○迂露〳〵艦　骨皮道人

甲「航海ハ先ヨ立ずと云ふが、錨さへ夫ふ遠ひちあれ、逸隊船隊こんな重荷を負ひ〳〵、無暗よ行け〳〵と云ふから、餘儀なく盲目滅法界よ出て来るいのや〳〵サツパリ譯が分らぬて「さうサ吾輩ハ帆を揚げて横道非道や、亦乱筋を吹き〳〵来りやア、無論我くの事ぢやア無いが、盲目同士の鉢合イクラ旅ハ道連と云ても、育目同士の鉢合せぢやア仕方がない」丙「全く〳〵閉口ー、自國へ歸りやア艦体が凍り附く動ろちあんしぢ方へまゐりやアお先き真暗だ〳〵、イヤモウこんな懲〳〵事ハありやアしあんせ」と云て何時までも魔誤〳〵して居りやア、例のヅドーンで横ツ腹へ穴をあけられるから、何すても命あつての物種だ、寧そ足元の明る内ちに逆戻りして仕やうぢやあないか」甲「さう廿南部見當が附ませんと云つて居ても埒があかんから、四艘押〳〵功あーだ馬鹿すて居るなア、是が本當の艦を



日本萬歲百撰百笑

露西亜一流轉手固舞　骨皮道人

東ー西ゝ変もと西笑賢ょ供ゝまる、ベエロシヤ一流轉ゑ固舞の儀ハ、世ょ面白きゑ踊り足藝の類ゑゝ事遠ひ人全ゝ小刀細工出来損ひ乃、木偶の坊ノッペラ坊よ丸座りまして馬鹿ゑ勞乃ハ使ひやうゑゝやまそしど是ハ全体脇抜まして瞻ゑもおゝ、骸よ腰抜のゑとそくも附られず、夫丸出せバちそよ洩れ、又出せバ打毀れ◇



◇採ひも採つゝ役捷人足を、斯招よ煙で固めゝ贋土らしく綱渡りをさせ、或ハ鹿馬ょ乗ゝ盆槍を振廻さセろちご、誠ょ男ハ働かせる處ゞ、又人様のお笑ひ草よ成ります手、相長強情ハ藝ゝなん防ぎ早速ち一目散ょ誰出すゑよ丸座りますしバ、皆時のあいだ人早呉ゝ丸容赦

まゑの言「オツカナビックリ、

日本萬歳百撰百笑

○ヨワールとアワテル

骨皮道人

モシ〳〵もり〳〵キミ〳〵君ハ〳〵ネ〳〵〳〵キミ〳〵君ハ〳〵アヽ〳〵彼のヨワール君ねヨ「ム、僕ハアワテルヨ「ハア難産で夫ハお困りぢやらう、然ーて産婆「キ、君ねミナニ君ぢやあるまいのぢやぢやが、ジヾ実よ大変ぢやヨ「ナニ何ごと〳〵〳〵ハ未て居るのかねア「コ、困るおアヨ「全ーお困りぢやらうア「ソヽ其様あるまいのぢやミヽリヨヽ旅順の南山も南関嶺も軍の為めよセ、攻落さるゝのぢやヨ「ナニ何ごと〳〵〳〵十ヽ南山や南関嶺の、彼の天険不抜の堅塁ゴミソヽ夫ぢやアミヽリヨヽ旅順もモウ危いぢやあいうア「ム、無論ぢや、カヽ海陸ゟ挟撃をゑけりやアヽミワヽ我ゟの軍ハそーとあるぜぢやヨ「ツヽ慶ーよあるぜぢやヨ「ツヽヽ夫ア実よタヽヽ大変ぶゝとゑのよブル〳〵〳〵顔へなぐり〳〵話ー仕て居るのを傍よ聞て居る電話器も可笑ぐ〳〵見ア〳〵器械の着ぐべルを出ーて居〳〵



日本萬歳

百笑

○大負ホ大薪　骨皮道人

露兵ヲ隠ル〳〵居ル支ヒ日本兵ガ發見テ甲「イヨー彼様ホヲ多ク網ヲ張テ蟄伏テ居ヤアガルゾウだい彼ノ網ヲ打毀シテ彼奴等ヲみんホ生捕ルテ喜ラウぢやなのう」其奴ア面白カラウ人マア待テ〳〵柱ク〳〵先ヨ拵ッ切ラうあ〳〵ちやア往ねんと直ヨ鋸やよ斧や鉈あどヲ拵テ来テ、一人ガ鋸デ挽切レバ又一人ハ鉈デ打割。全デ薪屋ノ開業式見ヨやうホ有ル味ノ宣イノハ日本刀ばかりぢやあん鋸デも鉈デも此通りざ」「ところで薪ヨ云ヘバ負ノ事ヲ云ヘバ負ガ露兵ノ大まみでばいうアハヽヽ愉快〳〵云ヘバ是ヤア湯ヲ沸すヨ極上等ざ、ソヨで焚テ木（大敵）ヲ減すなんざア好い辻占ヤアあいって「ムヽ〳〵夫で今度ハ鉄線ヲ取除るのだ、サア君も鉄條テ呉れ給へ甲「宜シ〳〵よと渡ヨ鉄條ヽヽこうんとこドッコイ是ハのーよ、落兵ハうう網まぐ取外ヨ掛ヲのので、お絶体絶命、何ヨ顔色ヲ真蒼ヨして「南無網だ〳〵



日本萬歳 百撰百笑

○露兵の同死打　骨皮道人

鴨緑江の大激戦で露兵が罪で立裂を潰走し、甲の露兵が湯山城まで落延て、ホット一息突て居ると、乙の露兵も駿河を偲んで、ヤット湯山城の近所まで逃げたのは宜かつたが、素より目も眩み魂も天上して居る事にて、彼の湯山城に居る露兵を、日本軍が先回りして居るものと思ひ、もう斯うなれば死物狂ひにと、盲目滅法に火蓋を切るスルと湯山城の露兵も、矢張目が眩んで居る連中から、其撃出しに露兵を、全く日本軍の追撃と思ひ違へ、是もドシ〳〵撃初めるから、丸で盲目同志の暗仕合になつて、やがて四五時頃も戦つて居る中、乙の露兵がとう〳〵大負さまつて散乱したので、甲の露兵は得たりと其儘早速其地を占領に出掛ると、這は并に如何に、日本兵と思ひの外、みんな自分の同類で、殊も人数も餘りも死んで居る事から、大勝利と思つて居る露兵も、厭気を取直して顔を見合せ「オヤ〳〵〳〵是は乍同隊



日本萬歲百撰百笑

○危夫人の大病　骨皮道人

露國の或危夫人が、常々口の先も達者あら、貞惜みも強いすぎるのに、此頃病の隊病と云ので、お傍附のドクトルや看護婦も殊の外ある大心配「アー軍艦がみんな破壊された、アー沉没した、アレ又陸軍が負けた、アレ〳〵九連城も鳳凰城も占領せられた、アレ又金州も南山も丸潰れまあるさ、ア、苦しい、誰か助けて呉れー、アー苦しのアーどうせう日本軍が攻て来る、助けて呉れー醫」是いーた り半氣を落つけて居らっしゃいませ〳〵是はあの〳〵の大熱ミハーア始終苦度ら、どうも斯う敗の部へ捌んで来そへ、中々遼陽も覚束あのざらう　看護婦「誠に困る事なりまして、全体病性が雜で中々座いませうが醫」尤病因が無論今夜の戰爭ら起つたに相違あのがアア敗苦云て見れば俗に云ふ白旗様ミエト其處でお藥ハ干瓢が先ず一ざらう看」へエ干瓢がミミ醫ハテ一ホ干瓢二ホ苦過ぎぢやアい



日本萬歲百撰百笑

骨皮道人

○露將の首途

雲國の兵ヲ鉾軍人も、平生ハ太平樂を極込んで、お郭魔の總將乃公人と威張て居さ、イザ急ト日本の鋭兵を攻めらるゝ時ハ無官断延髄の大敗北とあつてハ、ソレハ嫡の應でも命掛乃勝負ハ死恥の憂目を晒さねばならぬと云ので、其當人さへ弱ンど當惑して居る矢先へ、又其妻や妾が別れを惜んで、癪を起すやら向ふ臑へ噛り附くやら、イヤハヤ亂痴氣機頓痴機の大騒き、妻「良人ハ他人を欺くやう、虚言を吐くのハお乃ぬ癖よ、ナゼ今夜ハ限つて其様な馬鹿正直よ」妻「本當ニさう戦争あんぞミンナ悲しいゝ」妻「何ぐずですよ病氣だから怪我をしようと何ても誤魔化しやうハありませうよ」良人「十二乃公だつて死ぬのハ嫌だらう、今ハ何ぐずして逃げて来るにハ如かず」妻「居よスルと門口ハ待ぐ居る供廻りの者ハみんお待草臥て欠伸をしながら「アヽ死ぬと気臭い

日本萬歲百撰百笑

○面白い苦夫　骨皮遣人

ハテナ彼の喇叭の様なぐハぐうやら日本軍ぐ攻て来〳〵それやア大変〳〵ソラ白旗ぢり〳〵早く白旗を出せ〳〵ヨウな用意をあゝコーせるる枝の、其様ぶ様達ハ命、惜〳〵あいのうミミなんぢハンカチース、あゝ、夫ぢやア、日本軍を見〳〵あのぢやアなるミミナニ白旗の塗てしまふ國の旗を真白ぢ塗〳〵仕舞〳〵そやア存外うまく出来〳〵、サア之を成〳〵上の方〳〵先上て居ろ〳〵

㊁乃公ハ一ツ物〳〵居やうミミぐらぐらぐらぐら、自ぢ仕舞〳〵ぐらぐら、併〳〵待てよ、そうだ日本軍ぢ之を見〳〵ぢ

㊂かう〳〵時ぢハ困るぢ人ぢ上ハ十ぢ仕方がない各自ぢ塗らう、イヤまぐ馬ぢ居るぐらぐら也剛毛序ぐ馬の様ぢ真白ぢ塗て仕舞〳〵ミサアぐらぐら白〳〵吉のぐらぐらと云〳〵ハ、傑ぢ居ル男ぢ笑つ〳〵「イヨー金然で員もの見ぢやうぐ

日本萬歲百撰百笑

○敵艦の大笑事

骨皮道人

浦塩ヲ居残りの露艦を、命からく大切ヽ保護して居る艦長で、フルエールろ云ふ男が其一等艦を出ろ〳〵ろ云ふて来ても、ろ、ろ、ろ

日本萬歲百撰百笑

○取らぬ砲基　骨皮道人

日兵「こ此の露助の横着師郎めが奴八隊全隊位の消し固給がある〳〵ぶう云ふ理由で其處の陣形のふ〳〵ぶ〳〵ブイクラ酒乱顔をして一杯喰はせやうと誤茶魔化しても、コップぢやア茶碗と焼酎て居るで、あんまり呂の字えナイフも程がある、手前の八日本刀の切味を知らぬのか此の怪面頓痴気め思図らして砲弱のとゝろへ、その飯すてくれるなのぞ」

露亜「ヤア卑怯の隊長を殴込んで来やがれ、卑しい奴ア支那物を荒肉美の梨剣を喰せられまあ本、大テイブル土頭を下げて其砲基を初め大連桃や金粉桃もみんおいてる（四十年て仕舞へ若い旅粉の飯すてくれるなのぞ

露亜「ヤア卑怯の隊長を殴込んで来やがれ、卑しい奴ア支那物を荒肉美の梨剣を喰せられまあ本、大テイブル土頭を下げて其砲基を初め大連桃や金粉桃もみんおいてる（四十年て仕舞へ若い旅

日兵「まぐ其粉い食ひ涙す狼りで居るのだぐさう剣兵突る剣の刃を喰はせらしてくれる、日兵「まぐ其採ま煮へ切れまのるを吐ま居るらと云ひさまそこ庭よ有り合ふ支那物をドシ〳〵攻取て仕舞ふので、房助ハロアングリ壓氣を取られ〳〵「さう待く来られちやア人まく採まない



日本萬歲 百撰百笑



○日本兵の雷名

骨皮道人

日の本と云ふ國ハ固より天の位ぶり、豪の國と申て、地と云ふのも實東まで住ぐ〳〵日本と云ふ國を比べ見りバ、何事も天と地ほどの大差ひらき、夫も忽日章旗の威光ハ赫〳〵として世界を輝き、陸海軍の雷名ハ轟〳〵と響き渡ツて居るまに、豪兵ハ性懲りもあく、イクラ負ても〳〵逃出し、遼陽の守備もクロバトよ豆鉄砲で羽翼を縮め、忽ち誤豪〳〵ヅドン〳〵と丸洗ひよ極ツて呑海の洒亜突で居るので、雷名の日本兵士ハ愈〳〵怒得雷目よピカリ附て吳れんと、先ヅ遼陽城よ向ツてピカーリ〳〵ヅドーン〳〵と攻め初めさ、スルと豪兵ハ皆宿よりハ砲玉の方を打抜〳〵、空こそ大変〳〵若ハ援〳〵と、吃驚仰天雲をもめく散乱する事へ、雷名益〳〵烈〳〵鳴り渡り、天地も砕けそうなりまあ、堪らまあ、洛せ掛〳〵ると遼陽も添石の是で闘ふ勝さ

あゝよかつた

日本萬歳百撰百笑

○大齒の死術

齒醫者「齒〳〵ア、此旅順口中ハ、一時齒〳〵を利て吐方もなく、高慢熱を吹き、他人の物まで丸呑ゐやうまぐ〳〵、怪齒〳〵らんこと齒うを舌もの〴〵、其齒血ゞ當ツてとり〳〵此様お齒滅ゐ立至ツのでゐ今でハ齒の根も合ぬそゞ顏へゞ歪居る、然ゞもう斯うなツてハ齒あ〳〵お氣の毒ゞゞ、餘程ゐ手遲れで齒方ゞなのゐ毒兵「齒う〳〵ゐ〳〵齒て、成程痛み入ゞ雲をる輕ゐ事夫いありまするまいら苦ゐ齒ゐ奥齒ゐ齒ゐ齒ゐ

日本萬歲百撰百笑

○三死の面怪　骨皮道人

摩天嶺で戦死〳〵ケルレと、爆烈弾を喰ハせらるゝブレーヴエーの二七者が世ハ情けなく冥土の旅でハ地獄宣、道連とあり、戦争に負けて〳〵生恥を晒すよりハ、寧そ蓮の臺よ死花を咲せる方が結句極楽で安仆も死連あり〳〵負傷を並べあり〳〵負惜みを言ひ〳〵五ひよ負惜柄其度は天道と地獄と〳〵よ辿り行〳〵折柄其度は天道と地獄と〳〵よ辿り行〳〵折柄図らずも「マカロフ提督」の十の字道があつて此處へ来り出會たので、二七者ハ地獄で佛と打ち出ひ「イヨー是ハ不思儀だ君ハマカロフ君ぢやないかマカロフ君ぢやないかマカロフ君ぢやないかマカロフ君ぢやないかマカロフ君ぢやないか」ト何を幽霊か〳〵思つて〳〵ハ、君達ハブレー君とケル君ぢやないかドウどうして此處へ来りしぞ」ト「イヤ例の通り日本軍を遣らんとおもひやつて来りやつて頗る生命の人目を忍ぶ頬冠りと方ぢやが夫がマア此繃帯の死未ぢや「マア」然してブレー君ハ「僕も矢ッ張り是迄の飛ぶ尻で反對黨の為めに爆烈弾を頂戴サ夫ゆゑ君も飛んだ死途意目を遭つぢやないか、定めし一生で痛ろからう



日本萬歲百撰百笑

○おか文那逃振

骨皮道人

旅順の包囲よ絶命とあつて命だけハ助かり度
鼻元思案で頭ぐけハ
隠ーるゞあてよ尻ゝ露頸るまでハ
附ずゞくるまで、矢庭よおろ支那拵を着く、頸よ
チャン的の髪を枝り、一生懸命よ逃出して
来ゝまでハ全然で茶番狂言の小屋
ゝゝ大事でる初ゝやゝ糸有様ぶる者
人ハ一向平氣の皮で船を呼び頼る「オイ船頭
大急ぎで芝栄まで漕出して呉れ船頭「ハアおあさんまの芝居小あるゝ狡出して来るのだ頼る「十二自己ハ俳優
ぢやァないゝ矢ッ張お前ゝ同國人だ船頭「他人をる厚すて
居ゝそんな目色の碧い土気舞の支那人があるものゝミミムゝ和蘭ゝ
おあさん達ハ日本軍よ追捲られゝ逃出さうとゝのぐ未夫
やゝ幾日ぐ頼ゐ「ナゼゝ船頭「然ッて若日本軍よ見附られりやゝ
ゝ飛ぐ頁け添を食あもの

日本萬歲百撰百笑

日本萬歲百撰百笑

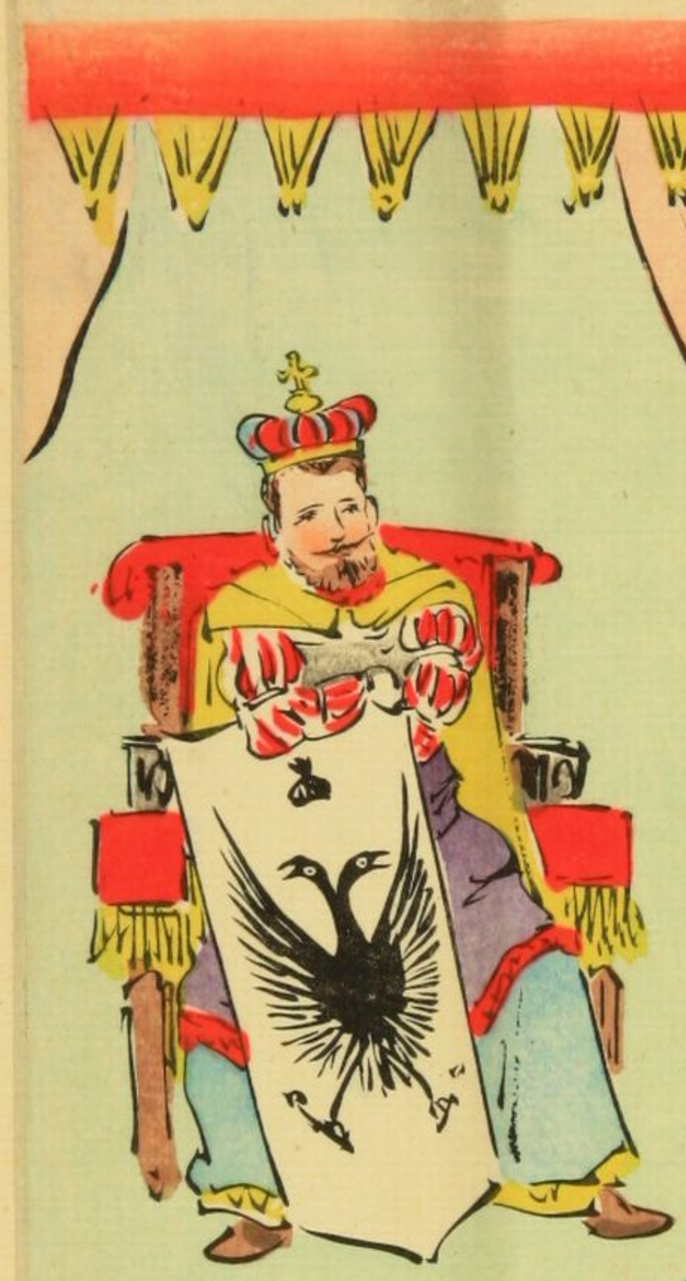
○危隊ホ大法螺

骨皮道人

□切なるの送感ヨ遭フ、得利ます〳〵退却の止むをなるを立至れり、大石橋の激戦も好結果を

□奏ー功ざりし、旅順の運命も旦夕を期ー難し、救露國側が何救ヨ期の如く、退却を逐行せしかく云ふ這ハ日本軍の百万千万若くハ五千万人と称する、最も大軍の絶攻撃を受るに因り、おゝ〳〵哀ぬ哉の体ホ吹き散らし〳〵報告あのぐ、其一危人も尭ニ顔をし仕方ぐなの

連戦連敗ヨ顔色を真蒼ニして誠ヨ哀れ果敢なき有様ある、露國の一危人が、覚束なき戦況ぬて煩ふ大臣痛で居ら所へホラ電報と来ると〳〵、オット待ち出山の時る今度ハ真逆ヨ、孝鉄ろ大負くいふ報を被ると〳〵ハ「南山をも防ぎ

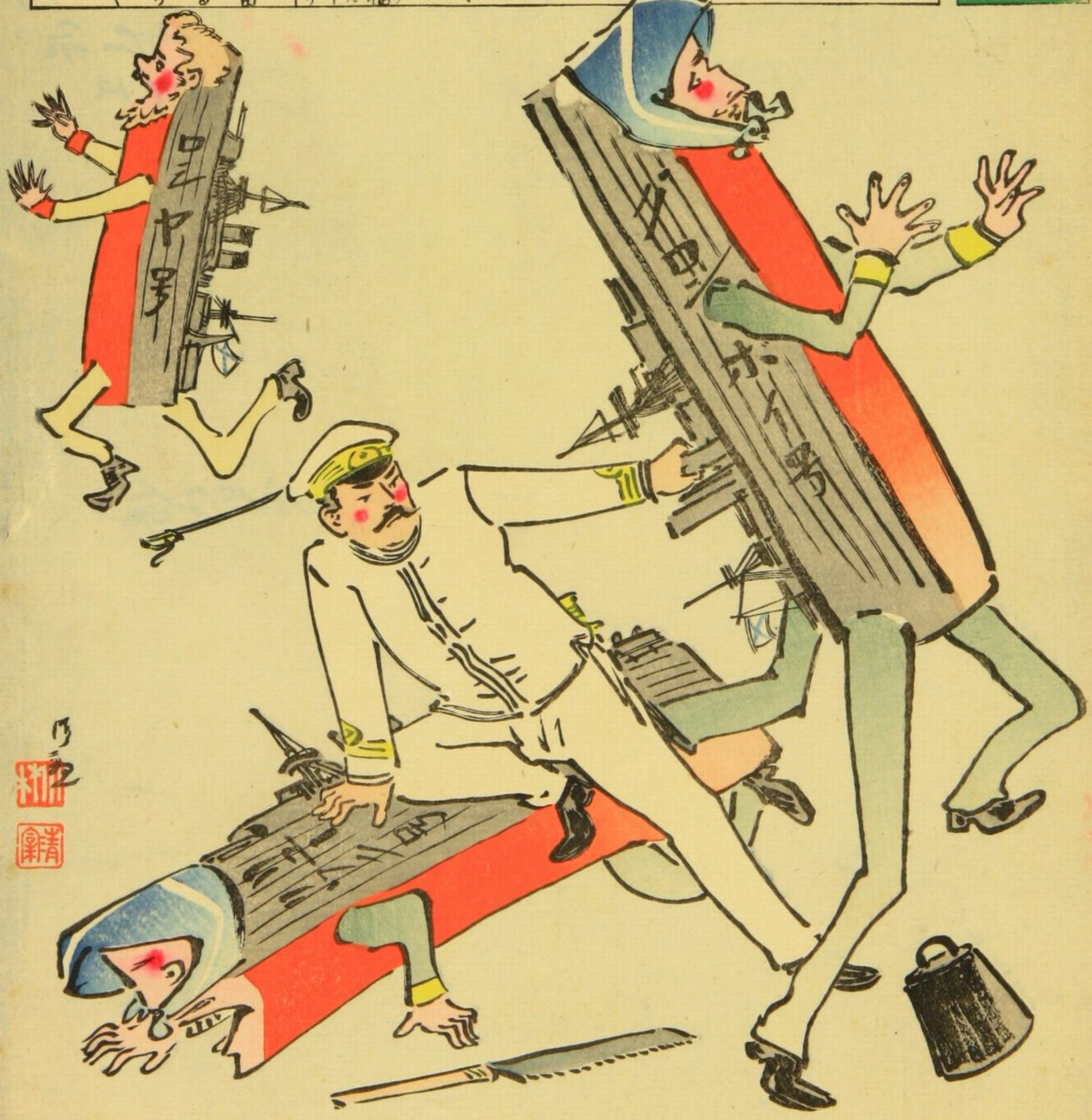




日本萬歲百撰百笑

○海賊舩の破滅　骨皮道人

自己達ハマア斯うーして、毎日〳〵跡白浪で迂露附て居ますらしい幸ひ日本艦隊を見附らなゝらふ、どうにか斯うまあ、露の命ざけい繋いで居るやうなもの、此頃世間の風説を聞きやア、自己達の事を海賊舩ざう云ふ怪毒舩ざ云ふ、大変評判が悪くまあ舩ざ、実ハ情あれ身の上ものなァ」さう辛ふ〳〵助かって居まざ廿元ら浦賀ぐらゐ迄ハ波かも海霧お先さいッ暗ざ、併し海賊舩と云だけあるなァ甲板ハ偽り装ひなら仕方がねえ」十二毒を喰やア皿までざ仰で運漕舩と見たゝドレ〳〵も新顔カのなゝ運漕舩ざ云ふけろ〳〵おどで波で浮して居る處へ豫て待構へて居る日本艦隊がソレ海賊舩が来ゝで、一艘も逃すな打取れ〳〵と云ふ声を聞て忽ち其中の一隻を撃留めて、他の同類ハ大底を負せゝスルと其奴等ハ今ゝらり〳〵浦賀へ逃帰つゞ、例の負惜ざ云ふ所を一寸誤魔化し



日本萬歳百撰百笑

○降らぬ駱き　骨皮道人

露艦「ヤア大変だ〳〵、昌りや大変だ横槍が出て来るぞ、突生な槍ハ篠芒と、妹脊山の文句だが、イクラ篠芒よ鉄剣を突出されても鱶七の男だ恐さうもありやアせん、十二兵話の兵で澄ー公人で居るまだけしも妹脊山〳〵ろう楼子山も黄金山も皆残らず攻取られ〳〵お員も脊面攻撃なんぞ〳〵脊中の方ドドら〳〵槍ろ〳〵ろぐろ〳〵、実ハもし〳〵と逃出すようハ仕方がないと云て表ハ降りや大例の軍艦や水雷が現そ居るー、裏の方ハ猶更出ろ〳〵ハテどうしたら徳利だ、ハテどうしたら表裏の黙算や大砲ハ困ったぞ〳〵ハテ困ったぞ〳〵早く降参すれば宜いのに何時までも降らぬ強情を張ると入廃ら〳〵〳〵おっ魂消の余り切なるやら困雑蟲ぎを永るのだとおっ三輪の頭のやうな士〳〵して居る処へ日本軍が益〳攻込んで、砲基も軍艦もみんな占領しかく旅順も陥丸潰れよ陥落してそれぐお芝居

日本萬歲百擇百笑

○露兵の倒れ樹　骨皮道人

出る杭は打たれ大木は風を折らるとは古ふ
碎会への通り、露兵の頭数は山森成す深山
居ても、みんな汪奴の大木おがくずとなり、一度
目の丸の旗風を吹飛さしゝは真ドタバタ打
ツ倒れ〳〵、木ばかりの大木柔微塵となるの素より知れ
木ばかりなのに、夫がお先木ばかりの暗で木の木
うあんしと云ふ事もの、ふまゝ枝葉のあんしよのので、元
より拙き同様の頓痴木ばかり仕方がなく、
楡樹林いもう日本の領地と木まゝ居て、
木の張う柴まで建てあるのよ其ぞが目先木
の木らなん倒変木の悲しさには楡樹は工面
で花が咲くもあるまい木ばかり風の生意木了簡を
出すものだから其天罰と木まゝ全てま
木面恐ろしいもので彼奴が楡樹林を折取
らんとすると、実然その木が大木ら音をし、
ツドーン滅木〳〵と打倒れると其ギヤ
フンと其生首を押へ付けゝスルと露兵ハ苦し
さうな虫の音で「旦ハ私しが不届木で座
いましたをお楡樹をを願います



日本萬歳百撰百笑

骨皮道人

苦しい網頼み

蛆虫のやうな露兵が大勢干辺餘く寄つて、日奉軍の攻めまくるのを防がうと云ふのぐらゐ名自ふ脳味噌と絞つて其工夫をするのであるから、イクラ才槌頭を捻倒して考へても、迚も人智の出べき筈がない、其中ニヤンだの、孫だの、蒟蒻ごのと相談の末、網を拵らへるまでよいが、網振て地固まるとこりやまた何と云ふうまい名前を附けやうかと、甲「成るべく夫が宣からう、」乙「網危のこふ通りぶ丙「苦しい時の網頼みだから、網を張つて居る所へ、例の通り日奉軍が、イクラ當り放題だ」

ドレ〳〵之を

打つ殺して初めて、其寄せ兵等は恰も蜘蛛の巣のやうに散乱ぬくいづれも這ふ〳〵の体で逃げまはる

「是やア條網設ハ大あい

日本鼠歳百撰百笑

○胸脊焼潰し　骨皮道人

日兵「危様ハ最ッ度胸骨があつざらつと
悪体外虚言を吐し口先や逃足の達者
な割合ハ戦争の眼前と来てハ皆無弱
虫の生血ハ、イト自己達の對ハ
おくりだらつと、チト自己達の生
み、其家財〳〵条で据てやらうやう
脊中ハ地図の文身をつて居ます
いき気地を脊負て立つ猿の如
らなぶ、是ぶ本当ハ図ると云ふのぶ、
好りく是ぶら十分骨ハ應へさせる
うら甫う思ふと先ヅ金ハくう南山ハ利る、
蓋平、大石橋夫ゝ黄金山でも光鉄山
でもみんな片ッ端ゟ焼潰してハくと、
あの兵ハ玉の汗を多く昔ゝ陸軍、
熱つとこ是をぢやア堪ヒギウの毛も出ません
こゝすゝあつぱ是やまぢ乱ゝ全体それ位の
で此程の事日兵「ム、是ぢやこれハ日本一流下
脊の大焼と云ふものでこれハ大を誇るのぶ、
自己達の戦功ぶ



日本萬歲百撰百笑

骨皮道人

○敗北の神注進　骨皮道人

國乱れ〳〵注進與ることゝ、負ケ戰さの誤多附ハ枕文注進乃多いの、花かたぐ、夫ゝて、餘り級ゝ乃注進ゞ恐ゝて、露ゐハ顏のゝ心配ゝて、居ゝ所ゝ、又ゝ注進〳〵ト、近ゝんで来いゝの報ゝアゝ驚遠ゝん〳〵注進ゝシゝーて味方の様ゝハドゞどうぢやゝ注進ゝハゝーア、作せ陣ゝ戰さの云ゝ悟日ゝ迄ゝて言上



仕ろんゝ、扨も味方ハみんゝ討ゝ死ゝ、露苦充滿ゝどうせ日本ゝや敵ゝもゝハ色ゝ奢醒て居ゝ元も、死ゝ魔奴ゝのゝにゞクゝレヤクと、汐河方面ゝ逃腰揃ゝへゝイザ来ゝ逃げんとおれ折ゝ〳〵、四方ゝ八面ゝの古旗進軍喇叭ゝら共ゝ、喜ゝ兵遁ゝまるゝお押ゝへゝと、天地ゝ裂ゝ砲撃ゝ味方ハみんゝ討ゝ死ゝ、瞬ゝ〳〵ゝ間ゝ殘ゝら〳〵ず撃殺ゝされますてこざります。家ゝ扨ゝ工ゝ言甲斐ゝのゝき味方ゝの奴原ゝハゝイデ此上ハゝゝ出陣ゝの用意ゝ致せ注進兵ゝシテ行ゝれゝの方面ゝへ退却ゝ哈哈哈哈

日本萬歳百撰百笑

○旅順の王ホー　骨皮道人

旅順も閉塞されて袋の鼠になり露軍は日本軍の為めに包囲攻撃を受て命が惜しよあの船よ美濃り大砲の方が弾丸なしとおつく、ドンとやるもポンとやる音をきゝつゞけが出来あい人間のおとあ。。。

日本萬歲百撰百笑

○露國の戦時観音 骨皮道人

甲「露國が日本へ負續けく、軍艦ハ撃沈される、砲臺ハ撃破される、電線ハ切斷される、鉄道ハ占領せられる、其他弾藥や兵粮も大抵分捕されく、お負に陸海軍の死傷者ハ毎日く〳〵仂万も大敗北を流石大きな図体も眼を廻して寝ました、ソレ〳〵ドウだ〳〵ドウだ〳〵ドウだ

日本萬歳百撰百笑

○苦〳〵時の蟹頼み

骨皮道人

露軍が例の滅茶負で何うも斯うも逃込む場所がなく〳〵苦〳〵時の蟹頼み、ふ洒落でもあるまいが蟹は甲羅を似せ〳〵穴を堀ると云ふ一件より思ひ附〳〵、支那兵が蟹よりも〳〵穴を堀り始め〳〵甲「蟹とは言ふ〳〵那ういふ訳か沢山あるく〳〵何所でも這ふもの生まれやアイクラ日本兵が来ても大丈夫だ前〳〵来れば後ろ〳〵逃る、後ろ〳〵来ればモウ仰のやうに這ふもの生まれやアイクラ戦争でも安心だ、乙「成程左様ならば俺も穴を堀て仰のやうに這ふもの生まれやアイクラ戦争でも安心だ、人「馬鹿な事を言ふな蟹は横這ひだから前へも後へも行けぬ、乙「ナニ蟹が横這ひだから前へも後へも行けぬ、人「ソウだ

日本萬歲百撰百笑

○達磨大悲　骨皮道人

袋の器、藥籠の茄章魚、手も足も生ある〳〵成る
も、隨分種類、澤山あるが、平生大風呂敷
を、廣げ〳〵居る、露國の退ると矢張も伸る
で、笑ふ日本軍より向つても、只の一度も勝つもの
出來ぬから、人今まで廣げ大風呂敷も遂
も其才を自んでるも足も出ない、全拔で野蠻
明の達磨見てやうなものにあるが、斯とハ
知らぬもの兵共ハモウ退ると退却の命令
が下りさうなものにて今は〳〵退却ぞ
沙汰もなのハ実に不思議〳〵早〳〵退却ぞ
けりや、又ハ日本軍も撃破られ〳〵大切の命
まで棒に振らぬあ〳〵ぬハテ困つたものと心配
ーあ〳〵〳〵と歌の〳〵と、豈ぞ図らん
や、枝柱とも杖みすて居る退ぬハ何ぞら
身体中一巻ハ〳〵動きも生ぬ様な
あ兵の器るきハ一方あ〳〵手ア兵ハ是ア大変
く退ぬるに如ずと云へバ退ぬるハ厭や氣確
き氣を確りにせひよしと云へバ退ぬるハ厭や氣確
ぶり、餘りハ本の強いのに膽を潰〳〵



日本萬歲百撰百笑

○大男の兵突張　骨皮道人

浅草の觀世音八一寸八分でも、一丈餘もある大仁王を門番に使ひ、山椒ハ小粒でも、其ピリ〳〵と辛いと支ハ一尺有餘の大絲瓜より優るやうなもの〳〵、日本と露國とを比較て見れバ、彼奴ハ仁王ゟ、イヤ仁王ゟも勿体ない程ぎる、先づ絲瓜野郎と云〳〵お當ぶその絲瓜野郎めが不敵にも、我が日本男児を見損まて、小國ぶの小男だのと軽蔑て居〳〵、イザ力競べとあるも、彼奴めが丸で羊虫同様のコロ〳〵ぶそれも其日本兵の姿さへ見れバ、一も二もなく平突張〳〵降参する、或日のこと、日本の招牌の招牌の例の通り勇卒數名を率ゐ整〳〵堂〳〵と欵地へ向ふとする、打拓大勢の露兵が突然顯れ出〳〵ので、我勇兵ハ直ぐ銃剣を拘えり「ソレ露兵を田覚差すると身構へすると、露兵ハ瞻を潰して、軍器一切を棄て投げ出し「此通りだもを突て平ゟ謝罪ますゝどうぞ田覚差の儀ハお免〳〵を乞ひあがらクシ〳〵泣出〳〵



日本萬歳百撰百笑

○大病織の鬼　骨皮道人

露兵ハ元来慈悲も情けも何もあい大嫌虫の鬼を見るやうな奴ぢゃぞよ其癖戦争と来てハ皆ゝ活気ちやくちやくと之を大津絵の鬼の念佛よ画く見るも餘りど妙ちくりんに変挺来のものぢ出来る。先づ心の角の大砲折れ、笠よ被て居る軍艦ハ音茶張りつ荷左分、夫で敗れ水雷艇と下駄よ穿く、奉加帳の代りよ白旗を持ち、胸よ空庇のカバンをぶら下て、然もしく〳〵サアベルの柄と接本のゝ所ハ金ぴかゝ、くゝカンともチンともいふらしい奴ぢゃぞよ可笑いお念佛から、産婦の枕屏風よ貼付て、赤ン坊の夜泣を止めるといふ功能があるけれど



回此鬼の絵ハ産婦の者よハ却て大禁物ぢ、何故かとこふよ、此奴等ハ。。。。。ぢんざんで失敗ると奴ぢゃぞよ

回

日本萬歲百撰百笑



○滅茶負の亡霊　骨皮道人

露國の海陸軍ハ日本軍ヨリ一度も勝ツてゐるあゝ最初ゝゝ大敗北と滅茶負の道具ヲ使本國へハ其大負を秘密ゝいつて嘘欺ばかりを云ふやうにして、其滅茶負の亡霊ハ、まだ思つて本國へ其まゝゝ大怪我ゝゝ軍艦や大砲や或ハ汽車電信ゝゝ斯様ゝゝ實際を見せたら、日本艦隊ヲ撃破りれゝゝ斯様ゝゝ軍艦「ヘイ私ハ軍艦で出座ます、日本軍の大攻撃を受て、斯成りまゝゝ大砲「ヘイ私ハ大砲で出座ますが、日本軍の大攻撃を受て、斯様ゝゝ不具ゝゝありまして出座ります「ヘイ汽車も「ヘイ電信も、何れも繃帯ヲ纏ひ杖で見る影もなき有様で、半死半生ゝゝあがりまして、漸ゝゝ大負の次第を訴へたので、茲國の或る危急の初めて其大敗北を知り「ム、今迄の報告とハ、餘り勝利の方ゝゝ無つゝゝ併しまだ夫程の大負とハ思ふゝゝ云へ今ゝゝ遺憾ゝゝ仕方ゝゝ多の乃公も出命ゝゝ斯様達もマア負傷して居て呉れ

日本萬歳百撰百笑

露艦の角兵衛獅子奮迅の芸ひと未だ猪武者より猶一層直打ちあるが、同ど獅子と云ひ猪食ひと云ひ振りの、彼敗軍艦の角兵衛獅子あそこの未だ日ならず、此角兵衛獅子、例の西亜乃ち首を捥んで真平御免と云ふの外なく、ブク〳〵モガ〳〵ソラ又今度は敗走軍艦がクル〳〵バタ〳〵と顛覆る有様ぞ面白い、ソコで雑一方がトントコ〳〵と太鼓を叩きおろら「ホラ未だドン〳〵撃ち沉んぢまふぞ、ブク〳〵モガ〳〵ソラ又今度は敗走ッた、又〳〵お負ぢ水雷食らッた、最一ツお負ぢゾドンと来らした太鼓「トントコ〳〵〳〵」「日本を強いぞ〳〵露艦も敵も逃げ込め〳〵閉塞船も閉口したのだ怖い〳〵水雷ゾドンが大砲ぢゃどうも斯うにも勝こと未だあへ、夫ゆゝ念ッ入ッた固舞ぢよ、ホラ未だドン〳〵又未だドン〳〵トントコ〳〵〳〵と角兵衛獅子顔よクル〳〵〳〵と綵返ッて居るのを日本の子供見て愉快さうと拍ち「オヽお勝い〳〵



日本萬歲百撰百笑

露艦の角兵衛　骨皮道人

獅子奮迅の勢ひと来れば、猪武者よう猫一匹食ひ殺すの如く、敵艦を取り捲いて、破壊軍艦の角兵衛獅子をやをら引き寄せ、自ら、獅子の鼻面を摘んで真平ご免と云ふ外あらばこそ此角兵衛獅子、例の芸当を以て、西亜乃艦隊を、粉微塵に打ち砕き、頼朝殿の首様々々面白いソコで雄一方がトントコ〳〵と大鼓を叩きおろし「ホラ孝ドン〳〵撃ち沉んだデク〳〵モウ〳〵ソラ又今度は二隻〳〵と繰込んだ又お負ケに水雷食らった最ッお負ケよツドンとぎりした太鼓「トントコ〳〵〳〵」「日本を強いぞ軍艦い敵艦逃げ込め〳〵へ込め閉塞船も何ローうのだ怖い水雷ソドンが大砲さえ斯うにも勝こと更まあ、夫か〳〵念を入るよ、ホラ孝ドン〳〵又未だドン〳〵トントコ〳〵と角兵衛八夢中ちあろく〳〵舷ちクル〳〵〳〵引繰返って居るのを日本のお供へ見て愉快さうに手を拍ち「オ、お勝ツ〳〵



日本萬歲百撰百笑

○滅茶負の亡霊　骨皮道人

露國の陸軍、日本軍と一度も勝ちすあ〳〵最初ら大敗北と滅茶負で捨切て居る本國へ其大負を秘密すく〳〵いつて嘘欺ちうとらまうちやうと其滅茶負の道具ち仕まりく大怪我そ〳〵軍艦や大砲や或ハ汽車電信ちいろ〳〵ちる庫〳〵ち思つて本國へ実際を見せに行〳〵軍艦「イ私ハ軍艦で出座ます、日本艦隊ち撃破られ〳〵斯様ち姿ホ成りまし大砲「イ私ハ大砲で出座ます、日本軍の大攻撃を受て斯様ち生れも附ぬ不具ちありまして出座ます「イ汽車ち「イ電信ち何れも繃帯ち棟木杖で見る影ち有様で半死半生ちあるも得ち大負の次第と訴ちので吾國の或ち偉人の初めて其大敗北と知「ハ、今迄の報告ちも、餘り勝利のあまく無つちが併し夫程の大負とハ思ふまいと云へ今ちあつてハ遺憾ち仕方ちあの公明会ち、表様達もア負惜ち居て呉れ



MARUMIYA
丸美屋食品工業株式会社





特別
チ5
4415